

[APIR Economic Forecast Channel]

日本経済・関西経済の現況と予測

第150回 景気分析と予測 & Kansai Economic Insight Quarterly No.71

2024年11月27日

アジア太平洋研究所 研究統括兼数量経済分析センター長 甲南大学 経済学部名誉教授 稲田 義久 マクロ経済分析プロジェクト

Outline

1. Executive summary p.3

2. 「第150回 景気分析と予測」の概要

■ 日本経済の現況 p.5-17

■ 予測結果の解説 p.18-25

3. 「Kansai Economic Insight Quarterly No.71」の概要

■ 予測の要旨 p.27-28

■ 関西経済の現況 p.29-36

■ 予測結果の解説 p.37-40

4. トピックス

- 関西2府4県GRPの早期推計 p.41
- SNSから見た万博の機運醸成の評価分析 p.42-48





Executive summary

【日本経済予測の要旨】

内需中心の緩やかな回復を予測、先行きリスクは純輸出

-実質GDP成長率予測:24年度+0.2%、25年度+1.2%、26年度+1.2% -

【関西経済予測の要旨】

万博近づき、緩やかな持ち直し続く関西経済

万博後の26年度成長率予測を追加、緩やかな成長を維持

【参考】前回予測の要旨

- 〇日本経済「実質賃金のプラス反転により、緩やかな回復を予測」
- 〇関西経済「内需の下支えにより緩やかに持ち直している-リスクの多様化に伴う先行き不透明感の強まりに注意-」

第150回 景気分析と予測

日本経済予測資料

マクロ経済分析プロジェクト Contributors

APIR研究統括兼数量経済分析センター長・ 甲南大学経済学部名誉教授 稲田義久 日本アプライドリサーチ研究所主幹研究員 下田充



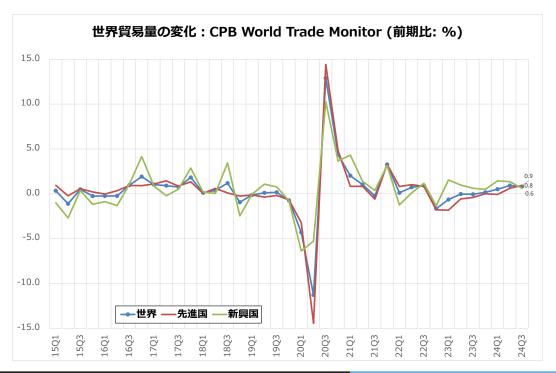
【QRコ<u>ードより</u> <u>本予測説明動画が11/28から</u> 視聴可能予定】

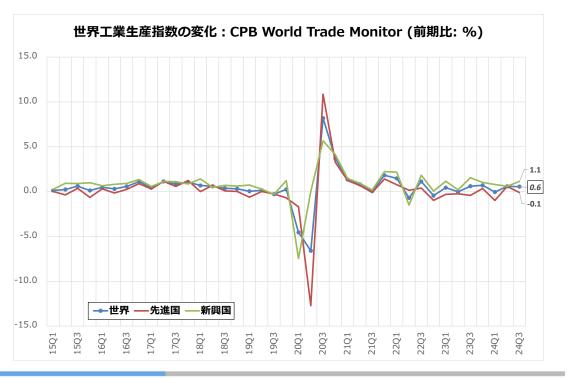




世界貿易は緩やかな回復だが…

- 2024年9月の世界貿易(数量ベース)は前月比-0.9%と2カ月ぶりの減少。7-9月期は前期比+0.8%、4四半期連続の拡大。世界貿易は緩やかに回復している
- 7-9月期の世界工業生産指数は前期比+0.6%と2四半期連続で上昇。新興国は同+1.1%と9四半期連続の上昇、先進国は同-0.1%と2四半期ぶりの低下。先進国の工業生産は一進一退で、先進国向けの輸出ウエイトが高い日本には良いニュースではない



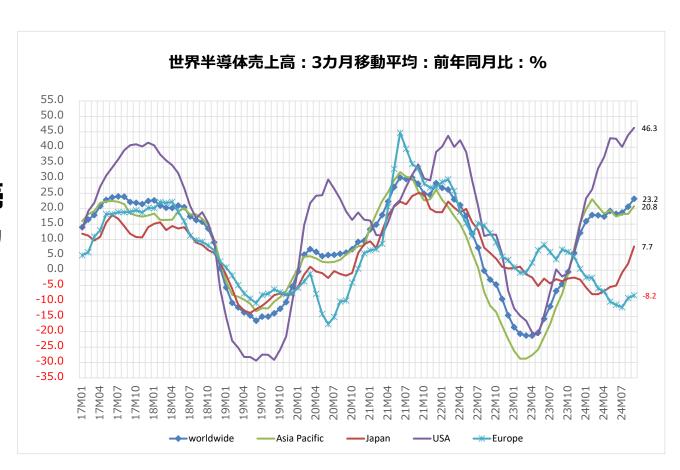






世界半導体売上は回復が続くが・・・

- 世界半導体市場統計によれば、9月の 世界半導体売上高(3カ月移動平均)は 前年同月比+23.2%と11カ月連続の プラス。23年11月に16カ月ぶりに増 加に転じ、12月以降二桁の伸び
- 地域別にみれば、アジア及び米国の売上高は11カ月連続の増加。日本は2カ月連続の増加。一方、ヨーロッパは9カ月連続の減少、AI関連需要の拡大もあり、半導体売上の回復が続く
- ただし10-12月期日本の機械受注(外 需)見通しは2四半期連続の減少



出所: World Semiconductor Trade Statistics



2. 「第150回 景気分析と予測」の概要:景気の現況

7-9月期:内需は2四半期連続の増加、純輸出は3四半期連続の減少

実質GDPと項目の成長率及び寄与度(前期比、%、%ポイント)

21Q1 1.4 0.4 0.1 0.1 -1.4 1.6 1.5 0.6 0.0 -0.2 -0.3 0.0 0.3 4.2 2.3 -0.4 21Q2 1.9 0.5 0.8 0.5 0.3 1.7 2.1 0.0 0.2 1.9 -3.2 0.0 -0.3 2.9 4.8 -0.1 21Q3 -1.5 -0.4 -0.6 -0.7 -1.1 -1.2 -1.4 0.2 0.2 1.2 -1.6 0.0 0.2 -0.7 -1.9 -1.0 21Q4 5.1 1.2 1.4 1.7 3.1 -0.5 0.3 0.0 -0.3 -1.1 -1.2 0.0 0.1 -0.6 0.3 0.8 22Q1 -2.0 -0.5 -0.3 -0.2 -1.2 -1.0 0.4 0.5 -0.1 0.6 -4.0 0.0 -0.2 3.2 4.4 -1.0 22Q2 4.5 1.1 1.0 1.0 1.9 -2.8 2.3 -0.3 0.0 0.9 -4.2 0.0 0.1 <								_	· · ·	- 127 (.				• • –	<u> </u>		
21Q1 1.4 0.4 0.1 0.1 -1.4 1.6 1.5 0.6 0.0 -0.2 -0.3 0.0 0.3 4.2 2.3 -0.4 21Q2 1.9 0.5 0.8 0.5 0.3 1.7 2.1 0.0 0.2 1.9 -3.2 0.0 -0.3 2.9 4.8 -0.1 21Q3 -1.5 -0.4 -0.6 -0.7 -1.1 -1.2 -1.4 0.2 0.2 1.2 -1.6 0.0 0.2 -0.7 -1.9 -1.0 21Q4 5.1 1.2 1.4 1.7 3.1 -0.5 0.3 0.0 -0.3 -1.1 -1.2 0.0 -0.1 -0.6 0.3 0.8 22Q1 -2.0 -0.5 -0.3 -0.2 -1.2 -1.0 0.4 0.5 -0.1 0.6 -4.0 0.0 -0.2 3.2 4.4 -1.0 22Q2 4.5 1.1 1.0 1.0 1.9 -2.8 2.3 -0.3 0.0 0.9 -4.2 0.0 0.1		GDP年率	GDP	国内需要	民間需要		民間住宅			公的需要				純輸出	輸出	輸入	GDI
21Q2 1.9 0.5 0.8 0.5 0.3 1.7 2.1 0.0 0.2 1.9 -3.2 0.0 -0.3 2.9 4.8 -0.1 21Q3 -1.5 -0.4 -0.6 -0.7 -1.1 -1.2 -1.4 0.2 0.2 1.2 -1.6 0.0 0.2 -0.7 -1.9 -1.0 21Q4 5.1 1.2 1.4 1.7 3.1 -0.5 0.3 0.0 -0.3 -1.1 -1.2 0.0 -0.1 -0.6 0.3 0.8 22Q1 -2.0 -0.5 -0.3 -0.2 -1.2 -1.0 0.4 0.5 -0.1 0.6 -4.0 0.0 -0.2 3.2 4.4 -1.0 22Q2 4.5 1.1 1.0 1.0 1.9 -2.8 2.3 -0.3 0.0 0.9 -4.2 0.0 0.1 1.8 1.3 0.2 22Q3 -1.2 -0.3 0.3 0.4 0.1 0.2 0.8 -1.2 -0.1 0.2 0.6 0.9 0.1	20Q4	7.2	1.7	1.4	1.2	1.9	0.1	1.8	-0.1	0.2	0.8	0.5	0.0	0.4	8.5	5.9	2.0
21Q3 -1.5 -0.4 -0.6 -0.7 -1.1 -1.2 -1.4 0.2 0.2 1.2 -1.6 0.0 0.2 -0.7 -1.9 -1.0 21Q4 5.1 1.2 1.4 1.7 3.1 -0.5 0.3 0.0 -0.3 -1.1 -1.2 0.0 -0.1 -0.6 0.3 0.8 22Q1 -2.0 -0.5 -0.3 -0.2 -1.2 -1.0 0.4 0.5 -0.1 0.6 -4.0 0.0 -0.2 3.2 4.4 -1.0 22Q2 4.5 1.1 1.0 1.0 1.9 -2.8 2.3 -0.3 0.0 0.9 -4.2 0.0 0.1 1.8 1.3 0.2 22Q3 -1.2 -0.3 0.3 0.4 0.1 0.2 2.1 0.0 0.0 -0.1 1.0 -0.1 1.8 1.3 0.2 22Q4 1.6 0.4 0.1 -0.1 0.2 0.8 -1.2 -0.1 0.2 0.6 0.9 0.1 0.3 0.8	21Q1	1.4	0.4	0.1	0.1	-1.4	1.6	1.5	0.6	0.0	-0.2	-0.3	0.0	0.3	4.2	2.3	-0.4
21Q4 5.1 1.2 1.4 1.7 3.1 -0.5 0.3 0.0 -0.3 -1.1 -1.2 0.0 -0.1 -0.6 0.3 0.8 22Q1 -2.0 -0.5 -0.3 -0.2 -1.2 -1.0 0.4 0.5 -0.1 0.6 -4.0 0.0 -0.2 3.2 4.4 -1.0 22Q2 4.5 1.1 1.0 1.0 1.9 -2.8 2.3 -0.3 0.0 0.9 -4.2 0.0 0.1 1.8 1.3 0.2 22Q3 -1.2 -0.3 0.3 0.4 0.1 0.2 2.1 0.0 0.0 -0.1 1.0 -0.1 1.8 1.3 0.2 22Q4 1.6 0.4 0.1 -0.1 0.2 0.8 -1.2 -0.1 0.2 0.6 0.9 0.1 0.3 0.8 -0.6 0.9 23Q1 5.0 1.2 1.3 1.2 0.8 0.7 </td <td>21Q2</td> <td>1.9</td> <td>0.5</td> <td>0.8</td> <td>0.5</td> <td>0.3</td> <td>1.7</td> <td>2.1</td> <td>0.0</td> <td>0.2</td> <td>1.9</td> <td>-3.2</td> <td>0.0</td> <td>-0.3</td> <td>2.9</td> <td>4.8</td> <td>-0.1</td>	21Q2	1.9	0.5	0.8	0.5	0.3	1.7	2.1	0.0	0.2	1.9	-3.2	0.0	-0.3	2.9	4.8	-0.1
22Q1 -2.0 -0.5 -0.3 -0.2 -1.2 -1.0 0.4 0.5 -0.1 0.6 -4.0 0.0 -0.2 3.2 4.4 -1.0 22Q2 4.5 1.1 1.0 1.0 1.9 -2.8 2.3 -0.3 0.0 0.9 -4.2 0.0 0.1 1.8 1.3 0.2 22Q3 -1.2 -0.3 0.3 0.4 0.1 0.2 2.1 0.0 0.0 -0.1 1.0 -0.6 1.7 4.9 -0.9 22Q4 1.6 0.4 0.1 -0.1 0.2 0.8 -1.2 -0.1 0.2 0.6 0.9 0.1 0.3 0.8 -0.6 0.9 23Q1 5.0 1.2 1.3 1.2 0.8 0.7 2.3 0.3 0.1 0.0 2.5 0.0 -0.1 -2.1 -1.6 1.7 23Q2 2.6 0.6 -1.0 -0.8 -0.7 1.2<	21Q3	-1.5	-0.4	-0.6	-0.7	-1.1	-1.2	-1.4	0.2	0.2	1.2	-1.6	0.0	0.2	-0.7	-1.9	-1.0
22Q2 4.5 1.1 1.0 1.0 1.9 -2.8 2.3 -0.3 0.0 0.9 -4.2 0.0 0.1 1.8 1.3 0.2 22Q3 -1.2 -0.3 0.3 0.4 0.1 0.2 2.1 0.0 0.0 -0.1 1.0 -0.6 1.7 4.9 -0.9 22Q4 1.6 0.4 0.1 -0.1 0.2 0.8 -1.2 -0.1 0.2 0.6 0.9 0.1 0.3 0.8 -0.6 0.9 23Q1 5.0 1.2 1.3 1.2 0.8 0.7 2.3 0.3 0.1 0.0 2.5 0.0 -0.1 -2.1 -1.6 1.7 23Q2 2.6 0.6 -1.0 -0.8 -0.7 1.2 -2.2 0.0 -0.2 -1.2 1.0 0.0 1.7 3.1 -4.1 1.2 23Q3 -4.0 -1.0 -0.8 -0.8 -0.4 -0.9 -0.1 -0.6 0.0 0.5 -2.0 0.0 -0.2 0.2 0	21Q4	5.1	1.2	1.4	1.7	3.1	-0.5	0.3	0.0	-0.3	-1.1	-1.2	0.0	-0.1	-0.6	0.3	0.8
22Q3 -1.2 -0.3 0.3 0.4 0.1 0.2 2.1 0.0 0.0 -0.1 1.0 -0.1 -0.6 1.7 4.9 -0.9 22Q4 1.6 0.4 0.1 -0.1 0.2 0.8 -1.2 -0.1 0.2 0.6 0.9 0.1 0.3 0.8 -0.6 0.9 23Q1 5.0 1.2 1.3 1.2 0.8 0.7 2.3 0.3 0.1 0.0 2.5 0.0 -0.1 -2.1 -1.6 1.7 23Q2 2.6 0.6 -1.0 -0.8 -0.7 1.2 -2.2 0.0 -0.2 -1.2 1.0 0.0 1.7 3.1 -4.1 1.2 23Q3 -4.0 -1.0 -0.8 -0.8 -0.4 -0.9 -0.1 -0.6 0.0 0.5 -2.0 0.0 -0.2 0.2 0.2 23Q4 0.4 0.1 0.0 0.1 -0.3 -1.0 2.1 0.0 -0.1 -1.7 0.0 0.1 2.9 2.4 <td< td=""><td>22Q1</td><td>-2.0</td><td>-0.5</td><td>-0.3</td><td>-0.2</td><td>-1.2</td><td>-1.0</td><td>0.4</td><td>0.5</td><td>-0.1</td><td>0.6</td><td>-4.0</td><td>0.0</td><td>-0.2</td><td>3.2</td><td>4.4</td><td>-1.0</td></td<>	22Q1	-2.0	-0.5	-0.3	-0.2	-1.2	-1.0	0.4	0.5	-0.1	0.6	-4.0	0.0	-0.2	3.2	4.4	-1.0
22Q4 1.6 0.4 0.1 -0.1 0.2 0.8 -1.2 -0.1 0.2 0.6 0.9 0.1 0.3 0.8 -0.6 0.9 23Q1 5.0 1.2 1.3 1.2 0.8 0.7 2.3 0.3 0.1 0.0 2.5 0.0 -0.1 -2.1 -1.6 1.7 23Q2 2.6 0.6 -1.0 -0.8 -0.7 1.2 -2.2 0.0 -0.2 -1.2 1.0 0.0 1.7 3.1 -4.1 1.2 23Q3 -4.0 -1.0 -0.8 -0.8 -0.4 -0.9 -0.1 -0.6 0.0 0.5 -2.0 0.0 -0.2 0.2 0.9 -0.7 23Q4 0.4 0.1 0.0 0.1 -0.3 -1.0 2.1 0.0 -0.1 -1.7 0.0 0.1 2.9 2.4 0.2 24Q1 -2.4 -0.6 -0.2 -0.2 -0.6 <t< td=""><td>22Q2</td><td>4.5</td><td>1.1</td><td>1.0</td><td>1.0</td><td>1.9</td><td>-2.8</td><td>2.3</td><td>-0.3</td><td>0.0</td><td>0.9</td><td>-4.2</td><td>0.0</td><td>0.1</td><td>1.8</td><td>1.3</td><td>0.2</td></t<>	22Q2	4.5	1.1	1.0	1.0	1.9	-2.8	2.3	-0.3	0.0	0.9	-4.2	0.0	0.1	1.8	1.3	0.2
23Q1 5.0 1.2 1.3 1.2 0.8 0.7 2.3 0.3 0.1 0.0 2.5 0.0 -0.1 -2.1 -1.6 1.7 23Q2 2.6 0.6 -1.0 -0.8 -0.7 1.2 -2.2 0.0 -0.2 -1.2 1.0 0.0 1.7 3.1 -4.1 1.2 23Q3 -4.0 -1.0 -0.8 -0.8 -0.4 -0.9 -0.1 -0.6 0.0 0.5 -2.0 0.0 -0.2 0.2 0.9 -0.7 23Q4 0.4 0.1 0.0 0.1 -0.3 -1.0 2.1 0.0 -0.1 -1.7 0.0 -0.2 0.2 0.9 -0.7 24Q1 -2.4 -0.6 -0.2 -0.2 -0.6 -2.9 -0.4 0.3 0.0 0.3 -1.1 0.0 -0.4 -4.5 -2.4 -0.7 24Q2 2.2 0.5 0.7 0.4 0.7 1.4 0.9 -0.1 0.2 0.1 4.1 0.0 -0.1 2.6	22Q3	-1.2	-0.3	0.3	0.4	0.1	0.2	2.1	0.0	0.0	-0.1	1.0	-0.1	-0.6	1.7	4.9	-0.9
23Q2 2.6 0.6 -1.0 -0.8 -0.7 1.2 -2.2 0.0 -0.2 -1.2 1.0 0.0 1.7 3.1 -4.1 1.2 23Q3 -4.0 -1.0 -0.8 -0.8 -0.4 -0.9 -0.1 -0.6 0.0 0.5 -2.0 0.0 -0.2 0.2 0.9 -0.7 23Q4 0.4 0.1 0.0 0.1 -0.3 -1.0 2.1 0.0 -0.1 -1.7 0.0 0.1 2.9 2.4 0.2 24Q1 -2.4 -0.6 -0.2 -0.2 -0.6 -2.9 -0.4 0.3 0.0 0.3 -1.1 0.0 -0.4 -4.5 -2.4 -0.7 24Q2 2.2 0.5 0.7 0.4 0.7 1.4 0.9 -0.1 0.2 0.1 4.1 0.0 -0.1 2.6 2.9 0.6	22Q4	1.6	0.4	0.1	-0.1	0.2	0.8	-1.2	-0.1	0.2	0.6	0.9	0.1	0.3	8.0	-0.6	0.9
23Q3	23Q1	5.0	1.2	1.3	1.2	0.8	0.7	2.3	0.3	0.1	0.0	2.5	0.0	-0.1	-2.1	-1.6	1.7
23Q4	23Q2	2.6	0.6	-1.0	-0.8	-0.7	1.2	-2.2	0.0	-0.2	-1.2	1.0	0.0	1.7	3.1	-4.1	1.2
24Q1	23Q3	-4.0	-1.0	-0.8	-0.8	-0.4	-0.9	-0.1	-0.6	0.0	0.5	-2.0	0.0	-0.2	0.2	0.9	-0.7
24Q2 2.2 0.5 0.7 0.4 0.7 1.4 0.9 -0.1 0.2 0.1 4.1 0.0 (-0.1) 2.6 2.9 0.6	23Q4	0.4	0.1	0.0	0.1	-0.3	-1.0	2.1	0.0	-0.1	-0.1	-1.7	0.0	0.1	2.9	2.4	0.2
	24Q1	-2.4	-0.6	-0.2	-0.2	-0.6	-2.9	-0.4	0.3	0.0	0.3	-1.1	0.0	-0.4	-4.5	-2.4	-0.7
24Q3 0.9 0.2 0.6 0.6 0.9 -0.1 -0.2 0.1 0.1 0.5 -0.9 0.0 -0.4 0.4 2.1 0.3	24Q2	2.2	0.5	0.7	0.4	0.7	1.4	0.9	-0.1	0.2	0.1	4.1	0.0	-0.1	2.6	2.9	0.6
	24Q3	0.9	0.2	0.6	0.6	0.9	-0.1	-0.2	0.1	0.1	0.5	-0.9	0.0	-0.4	0.4	2.1	0.3

注:国内需要、民間需要、 公的需要、在庫変動と 純輸出は寄与度。

出所:内閣府『国民経済計 算』よりAPIR作成

- 7-9月期の実質GDP成長率(前期比+0.2%)への寄与度を見ると、**国内需要は同+0.6%** ポイントと2四半期連続のプラス寄与。うち、民間需要は同+0.6%ポイントと2四半期連続のプラス寄与。特に、民間最終消費支出(同+0.5%ポイント)が大きく寄与した
- 一方、純輸出は同-0.4%ポイントと3四半期連続のマイナス寄与



2. 「第150回 景気分析と予測」の概要:景気の現況

7-9月期超短期予測の動態



- 11月15日発表のGDP1次速報によれば、7-9月期実質GDPは前期比年率+0.9%(前期比+0.2%)と2四半期連続のプラス成長だが、前期(同+2.2%)より減速、
- 実績は市場コンセンサス(ES Pフォーキャスト11月調査)の最終予測(同+1.0%)やCQ M最終予測とほぼ同じ
- CQM最終予測のうち、**支出** サイドは前期比年率+0.7%、 生産サイドは同-0.6%、両者 の平均は同+0.0%

本予測はペンシルバニア大学クライン名誉教授によって開発された超短期モデル(**C**urrent **Q**uarter **M**odel)のアイデアを日本経済に 適用したものである。本予測システムでは、毎週発表されたデータの景気への影響を調べることができる。予測は支出サイド、生産 サイド(主成分分析)の2つのモデルを用いて行われ、前者の予測値を主要系列とし、後者の予測値と両モデルの予測平均値を参考系 列としている





CQM(支出サイド)の予測パフォーマンス

前期比 %

超短期予測と実績 2024年7-9月期

	月19月11日 1970								
	予測	1次速報	コンセンサス						
国内総生産/国内総支出	0.2	0.2	0.25						
前期比年率	0.7	0.9	1.00						
民間最終消費支出	0.5	0.9	0.28						
民間住宅	-0.5	-0.1							
民間企業設備	0.3	-0.2	-0.01						
民間在庫変動(*)	-0.1	0.1							
政府最終消費支出	0.2	0.5							
公的固定資本形成	0.3	-0.9							
公的在庫変動(*)	0.0	0.0							
純輸出(*)	-0.1	-0.4							
財貨・サービスの輸出	1.0	0.4	2.56						
財貨・サービスの輸入	1.6	2.1	2.21						
GDPデフレータ	0.9	0.3							
国内需要	0.3	0.6							
民間需要	0.3	0.7							

- シェアの最も高い**民間最終消費支出** (前期比+0.9%)はコンセンサス(同 +0.28%)から大幅に上振れ、CQM 予測(同+0.5%)からは小幅の上振れ
- 結果、CQMは**民間需要**を実績(前期 比+0.6%)に対して**幾分過少予測**(同 +0.3%)、**純輸出を小幅の過大予測**

(実績:前期比-0.4%ポイント、

CQM:同-0.1%ポイント)

[■] CQMの実質GDP成長率予測はほぼ実 績(前期比+0.2%)に近い結果だが、

^{*}印は寄与度





回復過程:7-9月期はコロナ禍前ピークの+0.2%

	国内総生産	財貨輸入	サービス 輸入	民間最終消費 支出	民間資本 形成	政府支出	財貨輸出	サービス 輸出	名目国内総 生産
19Q3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
19Q4	97.2	98.5	96.2	96.6	94.8	100.2	97.6	100.2	98.0
20Q1	97.7	94.2	94.8	97.4	95.2	100.2	95.9	88.7	98.7
20Q2	90.2	95.1	88.8	89.4	91.6	101.6	78.2	76.6	91.6
20Q3	95.1	87.1	84.5	94.2	88.3	103.2	88.8	73.1	96.2
20Q4	96.8	93.9	84.7	96.0	89.3	103.8	97.8	74.5	97.8
21Q1	97.1	96.5	85.5	94.6	93.5	103.6	101.5	78.8	98.2
21Q2	97.6	99.7	93.8	94.9	95.2	104.6	104.8	79.8	98.7
21Q3	97.2	98.2	90.8	93.8	94.7	105.2	103.6	80.8	98.2
21Q4	98.4	98.4	91.4	96.8	94.9	104.1	103.1	79.9	99.3
22Q1	97.9	103.2	93.7	95.6	97.2	103.8	107.4	78.7	99.3
22Q2	99.0	105.3	92.6	97.4	97.2	103.8	108.1	84.6	100.1
22Q3	98.7	106.4	110.6	97.5	98.7	103.8	109.0	89.5	99.5
22Q4	99.1	107.0	105.8	97.8	97.5	104.7	108.4	95.3	101.5
23Q1	100.3	103.8	110.2	98.5	100.9	105.1	104.1	100.8	103.9
23Q2	101.0	99.2	107.0	97.8	99.1	104.2	106.6	106.6	106.0
23Q3	99.9	98.4	114.8	97.4	96.4	104.3	106.1	109.2	105.9
23Q4	100.0	102.1	112.3	97.2	97.8	103.9	105.8	124.9	106.7
24Q1	99.4	97.8	116.5	96.6	98.2	104.0	102.2	115.	106.4
24Q2	100.0	99.7	123.3	97.2	98.7	104.8	102.7	125.9	108.3
24Q3	100.2	102.1	124.6	98.1	99.0	105.1	104.6	120.7	108.8

(単位:2019年7-9月期=100)

- 2024年**7-9月期の実質GDP**は2四 半期連続の前期比プラスだが、**コ ロナ禍前のピークを高々+0.2%**。 物価上昇の影響もあり名目GDPは 8四半期連続でピーク超え
- 足下、民間最終消費支出、民間資本形成の回復は依然遅れているが、インバウンドの急回復もありサービス輸出はコロナ禍前のピークを7四半期連続で回復。一方、サービス輸入も9四半期連続で上回っており、サービスの純輸出はマイナス寄与

出所:内閣府『国民経済計算』よりAPIR作成



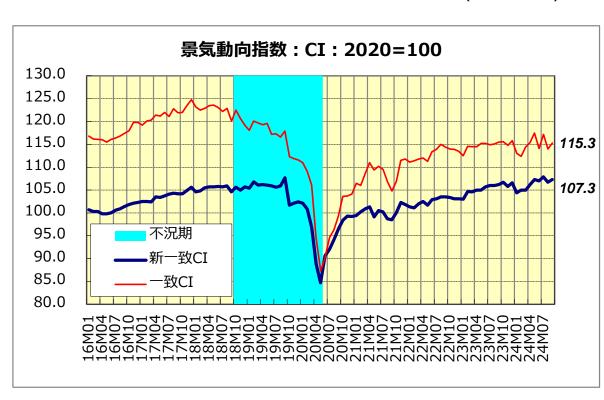


景気の基調判断は「下げ止まり」と据置

- 9月の一致指数(確報)は前月差+1.3ポイントと2カ月ぶりの上昇。9月の上昇は前月の自然災害による生産低迷からの反動
- 結果、**7-9月期**(115.5)は前期(115.7)から-0.2ポイント小幅低下し、**2四半期ぶりの悪化**(4-6月期:前期差+2.4ポイント)
- サービス活動を考慮した新一致指数は前月 差+0.6ポイントと2カ月ぶりの上昇。7-9 月期は前期差+0.5ポイントと2四半期連続 で上昇(4-6月期:同+2.0ポイント)
- 内閣府は**9月の基調判断を「下げ止まりを 示している」**と前月から据置



(2020=100)

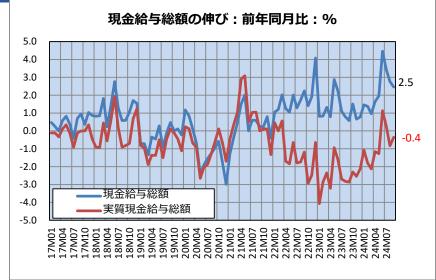


出所:内閣府『景気動向指数』より作成



7-9月期家計最終消費支出2四半期連続増加の背景

- 9月現金給与総額(確報)は前年同月比 +2.5%と33カ月連続の増加。実質現金 給与総額は同-0.4%と2カ月連続のマイナ ス。結果、7-9月期名目賃金は前年同期 比+2.9%と14四半期連続の上昇。実質賃 金は同-0.2%と10四半期連続の低下(4-6 月期:同-0.2%)
- 7-9月期実質雇用者報酬は前期比+0.0% と4四半期連続のプラス(4-6月期:同 +0.7%)。これに加えて、6月から実施されている一時的な定額減税の影響で家計 の可処分所得が大幅増加し、家計最終消 費支出の押し上げに寄与



出所:厚生労働省『毎月勤労統計



出所:内閣府『家計可処分所得・家計貯蓄率四半期別速報』



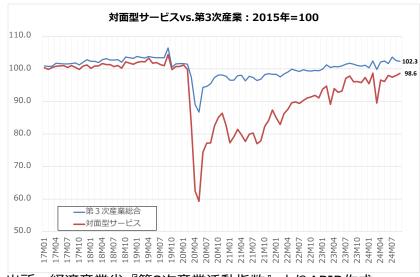
2. 「第150回 景気分析と予測」の概要:景気の現況

7-9月期鉱工業生産、サービス活動の基調は「一進一退」

- 9月の**鉱工業生産指数**(確報)は前月比+1.6%と2 カ月ぶりの上昇。**7-9月期は前期比-0.3%と小 幅ながら2四半期ぶりの低下**(4-6月期:同 +2.7%)。生産の基調判断は「**一進一退**」
- 9月の第3次産業活動指数は、前月比-0.2%と2 カ月連続の低下。7-9月期は前期比+0.8%と2 四半期連続の上昇(4-6月期:同+1.2%)。サービスの基調判断は「一進一退」
- 9月の対面型サービス業指数は前月比+0.7%と2 カ月連続の上昇。**7-9月期は前期比+1.1%と2** 四半期連続の上昇(4-6月期:同+2.5%)



出所:経済産業省『鉱工業指数』



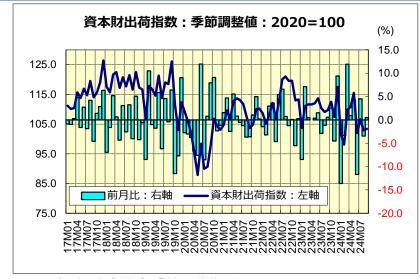
出所:経済産業省『第3次産業活動指数』よりAPIR作成



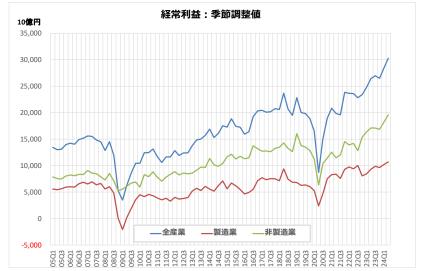
2. 「第150回 景気分析と予測」の概要:景気の現況

企業収益は過去最高を更新、投資拡大ポテンシャルは強い

- 9月の資本財出荷指数(確報)は前月比-3.5% と2カ月ぶりに低下。結果、7-9月期は前期 比-4.7%と2四半期ぶりに低下(4-6月期:前 期比+6.1%)。自然災害の影響が表れた
- 2024年4-6月期法人企業統計調査によれば、 全産業ベースの経常利益(季節調整値)は、前 期比+6.6%と2四半期連続の増益。製造業は 同+4.8%、非製造業は同+7.5%といずれも 2四半期連続の増加
- 企業収益は過去最高益を更新。人手不足対応 やDX向けの投資を中心に拡大のポテンシャ ルは強い



出所:経済産業省『鉱工業指数』



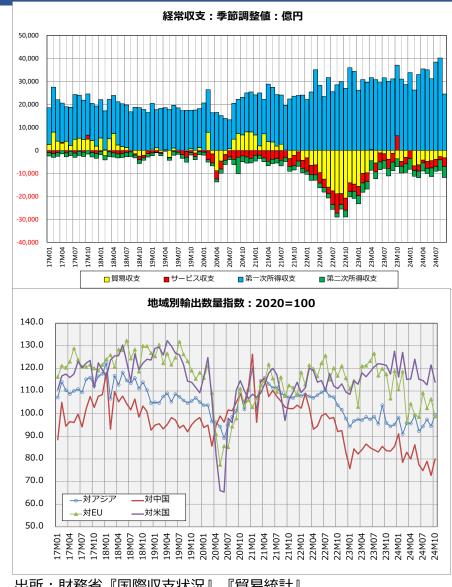
出所:財務省『法人企業統計調査(令和6年1-3月期)』よりAPIR作成





7-9月期のサービス赤字は2四半期ぶりに拡大

- 7-9月期経常収支黒字は前期比+3.2%と2四半 期連続で拡大(4-6月期:同+15.3%)
- 7-9月期貿易収支の赤字は前期比-26.8%と4四 半期ぶりに縮小(4-6月期:同+4.3%)
- 7-9月期サービス収支赤字は前期比+12.2%と 2四半期ぶりに拡大(4-6月期:同-12.5%)。旅 行収支黒字(インバウンド)は台風の影響で同-15.6%と4四半期ぶりに減少
- **10月の地域別輸出動向(数量ベース)**を7-9月平 均と比較すれば、対アジアは+4.3%、対中は +6.0%、対米は-2.0%、対EU-6.8%となった。 輸出は対アジア、対中で増加した。



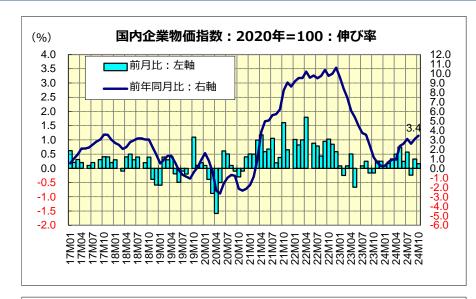
出所:財務省『国際収支状況』





国内企業物価:インフレは加速、改善する交易条件

- **10月の国内企業物価指数**は前月比+0.2%と2 カ月連続のプラス。前年同月比+3.4%と44カ 月連続のプラス(前月:+3.1%)。
- 10月のドル相場(月中平均)は149.63円、前月 比+4.4%と3カ月ぶり、前年同月比+0.1%と 2カ月ぶり、いずれも円安
- **10月の円ベース輸出物価指数**は前年同月比 +1.0%と2カ月ぶりの上昇。一方、**円ベース輸 入物価指数**は同-2.2%と2カ月連続の低下
- 結果、10月の交易条件指数(輸出物価指数/輸入物価指数*100)は前月差-0.3ポイントと3カ月ぶりの低下(悪化)。前年同月差+2.6ポイント上昇し、3カ月連続の改善





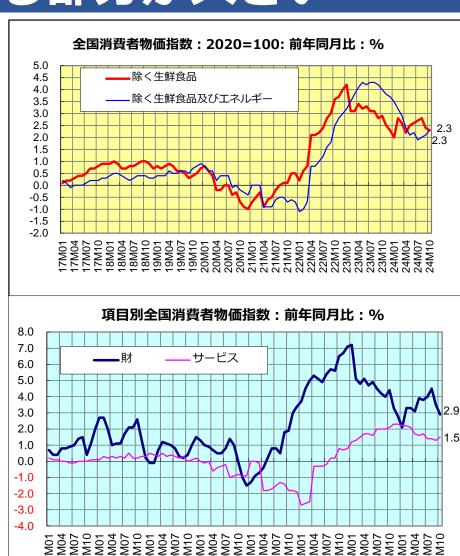
出所:日本銀行『国内企業物価指数』





消費者物価は政策に左右される部分が大きい

- 10月全国消費者物価コア指数(除く生鮮食品)は前年同月比+2.3%と38カ月連続の上昇だが、インフレ率は2カ月連続で減速。コアコア指数(除く生鮮食品及びエネルギー)のインフレ率は3カ月連続で加速
- **エネルギー**は前年同月比+2.3%(前月:+6.0%) と7カ月連続の上昇。**寄与度は+0.17%**。政府に よる**電気・ガス代補助の再開により上昇幅が縮小**
- 財・サービス:財は前年同月比+2.9%と42カ月 連続の上昇。生鮮食品を除く食料のインフレ率は3 カ月連続の加速だが、エネルギーの上昇幅が減速、 結果財価格の上昇率は前月(同+3.5%)から縮小。 サービスは同+1.5%と27カ月連続の上昇



出所:総務省『全国消費者物価指数』





海外環境:外生変数の想定比較

外生変数	24年度	25年度	26年度
原油価格(\$/bbl)	76.4	67.5	66.3
前回	81.9	78.1	
世界貿易量(%)	3.1	3.4	3.3
前回	3.1	3.4	
為替レート(¥/\$)	152.4	145.3	132.0
前回	149.2	138.8	

【海外外生変数の想定】

- (1)原油価格は、前回予測より 24-25年度を下方修正
- (2)世界貿易(World Trade Volume, WEO)は24-25年緩やかに回復、前回予測から据置
- (3)為替レートは、25-26年にかけ円高傾向、前回予測から3-7円程度の円安修正





23-26年度実績及び予測:前回予測との比較

	今回	(2024/11/	′18)		前回(2024/8/19)				
	2023	2024	2025	2026	2022	2023	2024	2025	
実質国内総生産(%)	0.8	0.2	1.2	1.2	1.6	0.8	0.4	1.2	
民間需要 (寄与度)	▲ 0.5	0.5	1.0	1.0	2.1	▲ 0.5	0.6	0.9	
民間最終消費支出(%)	▲ 0.6	0.8	1.2	1.1	2.7	▲ 0.6	0.9	0.9	
民間住宅(%)	0.3	▲ 2.3	0.5	0.3	▲ 3.3	0.3	▲ 0.8	0.8	
民間企業設備(%)	0.3	1.9	1.7	2.3	4.1	0.3	2.5	2.6	
民間在庫変動(寄与度)	▲ 0.2	▲ 0.1	0.0	0.0	0.1	▲ 0.3	▲ 0.2	▲ 0.1	
公的需要 (寄与度)	▲ 0.1	0.3	0.2	0.2	0.0	▲ 0.1	0.2	0.2	
政府最終消費支出(%)	▲ 0.5	1.0	0.9	0.6	1.4	▲ 0.5	0.6	0.9	
公的固定資本形成	0.6	2.0	0.9	1.6	▲ 6.1	0.7	2.3	0.6	
公的在庫変動(寄与度)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 0.0	▲ 0.0	
外需 (寄与度)	1.4	▲ 0.5	▲ 0.0	0.0	▲ 0.5	1.4	▲ 0.4	0.1	
財貨サービスの輸出(%)	2.8	1.7	2.3	1.8	4.9	2.8	0.4	2.7	
財貨サービスの輸入(%)	▲ 3.2	4.4	2.5	1.8	7.3	▲ 3.2	2.3	2.4	
名目国内総生産(%)	4.9	2.5	2.9	2.8	2.5	4.9	2.8	2.8	
国内総生産デフレータ(%)	4.1	2.3	1.7	1.6	0.9	4.0	2.3	1.6	
国内企業物価指数(%)	2.4	2.7	0.6	0.0	9.5	2.3	2.3	0.6	
消費者物価コア指数(%)	2.7	2.5	1.8	1.6	3.1	2.8	2.3	1.6	
鉱工業生産指数(%)	▲ 1.9	▲ 0.8	3.0	2.1	▲ 0.3	▲ 1.9	0.5	2.0	
住宅着工戸数:新設住宅(%)	▲ 7.0	▲ 0.1	▲ 1.4	0.7	▲ 0.6	▲ 7.0	0.4	▲ 0.3	
完全失業率(%)	2.6	2.5	2.4	2.3	2.6	2.6	2.5	2.3	
経常収支 (兆円)	26.6	29.8	30.6	31.0	9.1	25.1	26.5	25.6	
対名目GDP比(%)	4.5	4.9	4.9	4.8	1.6	4.2	4.3	4.1	
原油価格(ドル/バレル)	80.7	76.4	67.5	65.2	92.5	80.7	81.9	78.1	
為替レート(円/ドル)	144.5	152.4	145.3	132.0	135.4	144.5	149.2	138.8	
米国実質国内総生産(%、暦年)	2.9	2.7	2.0	2.1	1.9	2.5	2.6	1.6	

【前回予測からの修正幅】

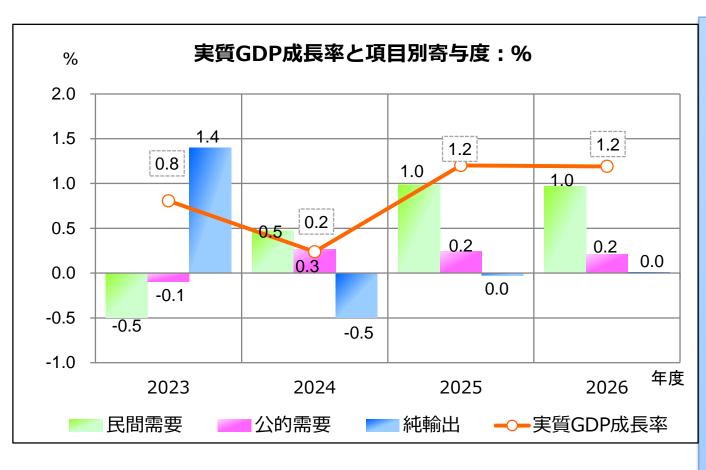
- 24年度成長率:0.4%→0.2%
- 民間需要(-0.1%ポイント)と 純輸出(-0.1%ポイント)を下 方修正、公的需要(+0.1%ポイント)を イント)を上方修正
- 25年度成長率: 1.2%→1.2%
- 民間需要(+0.1%ポイント)を 上方修正、公的需要(0.0%ポ イント)を据置、純輸出(-0.1%ポイント)を下方修正

注:四捨五入の関係で、需要構成項目の修正幅 を合計してもGDPの修正幅とは必ずしも合 致しない。出所:APIR『第150回 景気分析 と予測』





実質GDP成長率の予測と項目別寄与度



【GDP成長率予測:24年度+0.2%、 25年度+1.2%、26年度+1.2%】

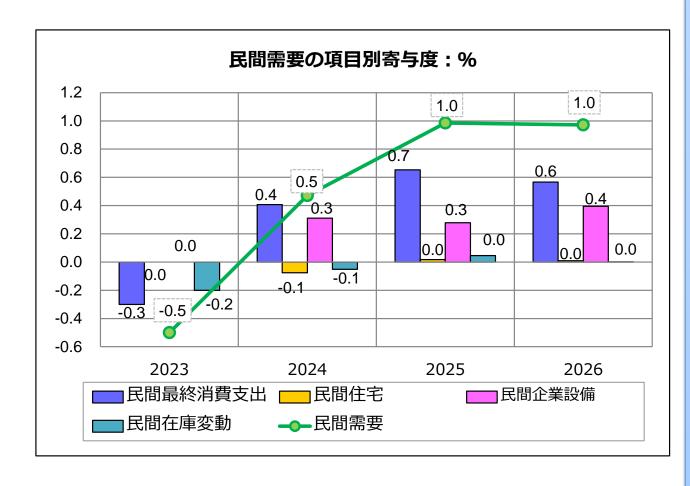
- 項目別寄与度
- 24年度:民間需要+0.5%ポイント、 公的需要+0.3%ポイント、純輸出-0.5%ポイント
- 25年度:民間需要+1.0%ポイント、 公的需要+0.2%ポイント、純輸出-0.0%ポイント
- 26年度:民間需要+1.0%ポイント、 公的需要+0.2%ポイント、純輸出 +0.0%ポイント

注:四捨五入の関係で、需要構成項目の寄与度を合計しても実質GDP成長率とは必ずしも合致しない。





民間需要項目別寄与度



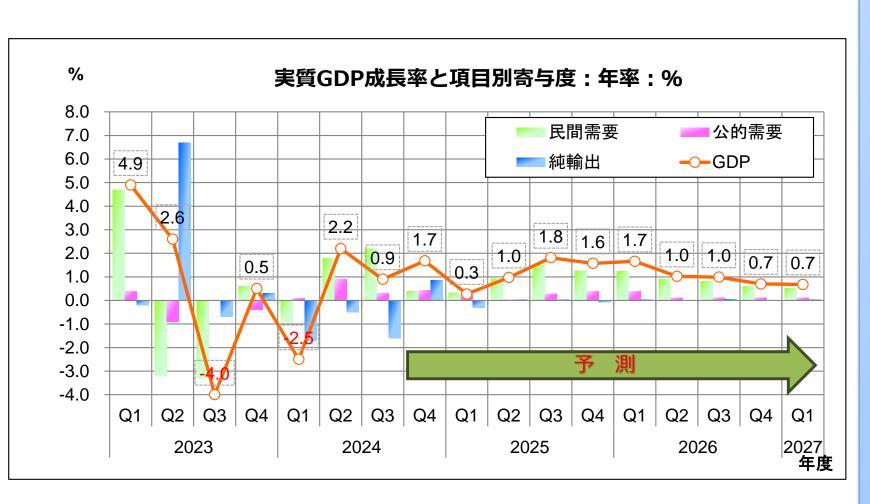
- 民間需要項目別寄与度
- 24年度:民間最終消費支出+0.4%ポイント、民間住宅-0.1%ポイント、民間企業設備+0.3%ポイント、民間在庫変動-0.1%ポイント
- 25年度:民間最終消費支出+0.7%ポイント、民間住宅+0.0%ポイント、 民間企業設備+0.3%ポイント、民間在庫変動+0.0%ポイント
- 26年度:民間最終消費支出+0.6%ポイント、民間住宅+0.0%ポイント、 民間企業設備+0.4%ポイント、民間在庫変動+0.0%ポイント

注:四捨五入の関係で、需要構成項目の寄与度を合計しても実質GDP成長率とは必ずしも合致しない。





実質GDPを四半期ベースでみれば:実績と予測



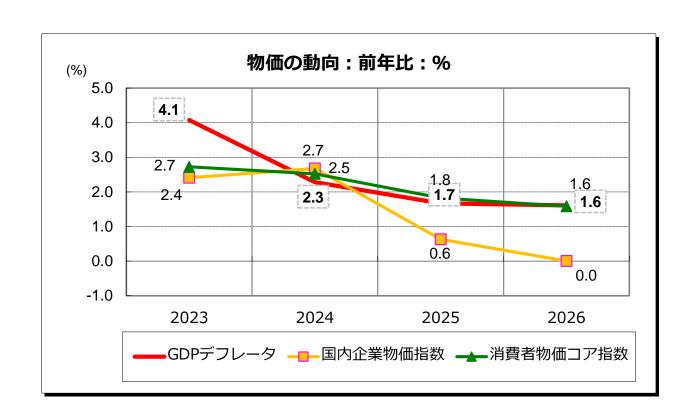
- 24年度後半は定額減税による 一時的な民間最終消費支出押 上げ効果が剥落するため、24 年度の成長率は低め
- 25年の賃上げも前年に匹敵する伸びが実現でき、消費者物価インフレが減速する年度後半には、実質賃金の増加幅が緩やかに拡大。潜在成長率を上回る成長を予測
- ただ純輸出については景気下 押しのリスクが高く、25-26 年度は内需を中心とした緩や かな回復となろう





インフレーションの動態

- 消費者物価コア指数のインフレ率 を、2024年度+2.5%、25年度 +1.8%、26年度+1.6%と予測
- 消費者物価インフレ率は、政策に左右される部分が大きい。このため前回予測から、24-25年度ともに+0.2%ポイント上方修正
- GDPデフレータは24年度 +2.3%、25年度+1.7%、26年 度+1.6%と予測







日本経済予測結果表:四半期主要経済指標

接属性性性																	
要質面内線性度 557.3 558.5 560.8 561.2 562.6 565.1 567.3 569.7 571.1 572.5 573.5 574.5 558.1 558.5 566.2 572.9 兆円 0.5 0.2 0.4 0.4 0.1 0.2 0.5 0.4 0.4 0.3 0.2 0.2 0.2 0.8 0.2 0.2 1.2 1.2 1.2 1.0 0.2 0.6 1.3 1.0 1.2 1.2 1.2 1.5 1.5 1.5 1.3 1.1 0.8 8			四半期											年度			
野門		24Q2	24Q3	24Q4	25Q1						26Q3						
を目面内総生産 60.7.7 610.0 612.5 616.8 620.5 627.0 632.0 638.0 641.8 645.9 648.8 652.0 596.6 611.7 629.4 647.1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		557.3	558.5	560.8	561.2	562.6	565.1	567.3	569.7	571.1	572.5	573.5	574.5	558.1	559.5	566.2	572.9
各目画内総生産	兆円	0.5	0.2	0.4	0.1	0.2	0.5	0.4	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.8	0.2	1.2	1.2
非円		-1.0	0.2	0.6	1.3	1.0	1.2	1.2	1.5	1.5	1.3	1.1	0.8				
CDPデフレータ	名目国内総生産	607.7	610.9	612.5	615.8	620.5	627.0	632.0	638.0	641.8	645.9	648.8	652.0	596.6	611.7	629.4	647.1
GDPデブレータ	兆円	1.7	0.5	0.3	0.5	0.8	1.1	0.8	0.9	0.6	0.6	0.4	0.5	4.9	2.5	2.9	2.8
2015=100 1.2 0.3 0.2 0.5 0.5 0.6 0.4 0.5 0.3 0.4 0.3 0.3 0.4 1.3 1.7 1.6		2.1	2.8	2.3	3.1	2.1	2.6	3.2	3.6	3.4	3.0	2.7	2.2				
第三年 日初秋 101.7 101.4 102.0 103.1 103.9 104.9 105.5 106.1 106.6 107.2 107.6 108.0 102.9 102.1 105.1 107.3 2020=100 2.7 -0.4 0.6 1.1 0.8 1.1 0.8 1.0 0.6 0.5 0.5 0.6 0.5 0.5 0.6 0.4 0.4 -1.9 -0.8 3.0 2.1 日本語	GDPデフレータ	109.0	109.4	109.2	109.7	110.3	111.0	111.4	112.0	112.4	112.8	113.1	113.5	106.9	109.3	111.2	113.0
新工業生産指数 101.7 101.4 102.0 103.1 103.9 104.9 105.5 106.1 106.6 107.2 107.6 108.0 102.9 102.1 105.1 107.3 2020 = 100 2.7 -0.4 0.6 1.1 0.8 1.0 0.6 0.5 0.5 0.5 0.5 0.4 0.4 -1.9 -0.8 3.0 2.1 -2.9 -1.8 -2.3 4.1 2.1 3.5 3.4 2.9 2.6 2.2 2.0 1.8 -2.9 -1.8 -2.3 4.1 2.1 3.5 3.4 2.9 2.6 2.2 2.0 1.8 -2.0 1.8 -2.0 1.8 -2.0 1.9 -2.0 1.9 -2.0 1.9 -2.0 1.9 -2.0 1.8 -2.0 1.8 -2.0 1.8 -2.0 1.8 -2.0 1.8 -2.0 1.9 -2.0 1.9 -2.0 1.9 -2.0 1.8 -2.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1	2015=100	1.2	0.3	-0.2	0.5	0.5	0.6	0.4	0.5	0.3	0.4	0.3	0.3	4.1	2.3	1.7	1.6
2020=100 2.7 -0.4 -0.6 1.1 0.8 1.0 0.6 0.5 0.5 0.5 0.4 0.4 -1.9 -0.8 3.0 2.1 全著工戸数:新設住宅 205 196 200 199 199 195 196 198 198 199 199 199 199 195 196 198 199 199 199 199 199 199 195 196 198 199 19		3.1	2.6	1.7	1.8	1.1	1.4	2.0	2.1	1.9	1.7	1.6	1.3				
住宅着工戸数:新設住宅 205 196 200 199 199 195 196 198 198 199 199 199 198 800 799 788 794 干戸 4.3 4.4 2.1 -0.5 0.1 -2.1 0.5 1.2 -0.2 0.8 -0.3 -0.5 -7.0 -0.1 -1.4 0.7 0.2 -2.1 -0.4 1.2 -2.8 -0.4 -2.0 -0.3 -0.6 2.2 1.4 -0.2 国内企業物価指数 122.2 123.3 123.7 123.8 123.9 124.1 124.1 124.0 124.0 124.0 124.2 120.0 123.3 124.0 124.0 2020=100 1.4 0.9 0.3 0.1 0.1 0.2 0.0 0.0 -0.1 0.1 0.0 0.2 2.4 2.7 0.6 0.0 1.9 2.9 3.2 2.7 1.4 0.6 0.3 0.2 0.0 -0.1 -0.1 0.1 0.1 0.1 0.1 0.1 0.1 0.1 0.1 0.1	鉱工業生産指数	101.7	101.4	102.0	103.1	103.9	104.9	105.5	106.1	106.6	107.2	107.6	108.0	102.9	102.1	105.1	107.3
任宅者工戸数:新設住宅 205 196 200 199 199 195 196 198 198 199 199 199 198 800 799 788 794	2020 = 100	2.7	-0.4	0.6	1.1	0.8	1.0	0.6	0.5	0.5	0.5	0.4	0.4	-1.9	-0.8	3.0	2.1
手戸 4.3 4.4 2.1 -0.5 0.1 -2.1 0.5 1.2 -0.2 0.8 -0.3 -0.5 7.0 -0.1 -1.4 0.7 0.2 -2.1 -0.4 1.2 -2.8 -0.4 -2.0 -0.3 -0.6 2.2 1.4 -0.2 -2.0 1.5 -2.0 1.4 -0.2 -2.0 1.5 -2.0 1.4 -0.2 -2.0 1.5 -2.0 1		-2.9	-1.8	-2.3	4.1	2.1	3.5	3.4	2.9	2.6	2.2	2.0	1.8				
国内企業物価指数 1222 1233 1237 123.8 123.9 124.1 124.1 124.1 124.0 124.0 124.0 124.2 120.0 123.3 124.0 124.0 124.0 124.2 120.0 123.3 124.0 124.0 124.0 124.0 124.0 124.2 120.0 123.3 124.0 124.	住宅着工戸数:新設住宅	205	196	200	199	199	195	196	198	198	199	199	198	800	799	788	794
国内企業物価指数 122.2 123.3 123.7 123.8 123.9 124.1 124.1 124.0 124.0 124.0 124.0 124.2 120.0 123.3 124.0 124.0 2020=100 1.4 0.9 0.3 0.1 0.1 0.1 0.2 0.0 0.0 0.0 -0.1 0.1 0.0 0.2 2.4 2.7 0.6 0.0 1.9 2.9 3.2 2.7 1.4 0.6 0.3 0.2 0.0 -0.1 -0.1 0.1 0.0 0.2 2.4 2.7 0.6 0.0 1.9 2.9 3.2 2.7 1.4 0.6 0.3 0.2 0.0 -0.1 -0.1 0.1 0.1 0.1 0.1 0.1 0.1 0.1 0.1 0.1	千戸	4.3	-4.4	2.1	-0.5	0.1	-2.1	0.5	1.2	-0.2	0.8	-0.3	-0.5	-7.0	-0.1	-1.4	0.7
2020 = 100		0.2	-2.1	-0.4	1.2	-2.8	-0.4	-2.0	-0.3	-0.6	2.2	1.4	-0.2				
1.9 2.9 3.2 2.7 1.4 0.6 0.3 0.2 0.0 0.1 0.1 0.1 1.	国内企業物価指数	122.2	123.3	123.7	123.8	123.9	124.1	124.1	124.1	124.0	124.0	124.0	124.2	120.0	123.3	124.0	124.0
消費者物価コア指数 2020=100 0.8 0.9 0.0 0.4 0.6 0.7 0.2 0.0 0.6 0.5 0.5 0.1 2.7 2.5 1.8 1.6 2.5 2.7 1.9 2.1 1.9 1.8 2.0 1.7 1.6 1.4 1.6 1.7 2.7 2.5 1.8 1.6 2.5 2.7 1.9 2.1 1.9 1.8 2.0 1.7 1.6 1.4 1.6 1.7 2.7 2.5 1.8 1.6 2.5 2.7 1.9 2.1 1.9 1.8 2.0 1.7 1.6 1.4 1.6 1.7 2.7 2.5 1.8 1.6 2.5 2.7 1.9 2.1 1.9 1.8 2.0 1.7 1.6 1.4 1.6 1.7 2.7 2.5 1.8 1.6 2.5 2.7 2.7 2.5 2.7 2.7 2.5 2.7 2.7 2.7 2.7 2.7 2.7 2.7 2.7 2.7 2.5 2.7 2.7 2.5 2.5 2.7 2.7 2.5 2.7 2.7 2.7 2.7 2.7 2.7 2.7 2.7 2.7 2.7	2020 = 100	1.4	0.9	0.3	0.1	0.1	0.2	0.0	0.0	-0.1	0.1	0.0	0.2	2.4	2.7	0.6	0.0
2020=100 0.8 0.9 0.0 0.4 0.6 0.7 0.2 0.0 0.6 0.5 0.5 0.1 2.7 2.5 1.8 1.6 2.5 2.7 1.9 2.1 1.9 1.8 2.0 1.7 1.6 1.4 1.6 1.7 2.7 2.5 1.8 1.6 2.5 2.7 1.9 2.1 1.9 1.8 2.0 1.7 1.6 1.4 1.6 1.7 2.7 2.5 1.8 1.6 2.5 2.7 1.9 2.1 1.9 1.8 2.0 1.7 1.6 1.4 1.6 1.7 2.7 2.5 1.8 1.6 2.5 2.7 1.9 2.1 1.9 1.8 2.0 1.7 1.6 1.4 1.6 1.7 2.7 2.0 2.5 2.6 2.7 2.5 2.5 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4		1.9	2.9	3.2	2.7	1.4	0.6	0.3	0.2	0.0	-0.1	-0.1	0.1				
2.5 2.7 1.9 2.1 1.9 1.8 2.0 1.7 1.6 1.4 1.6 1.7 1.7 1.	消費者物価コア指数	107.5	108.4	108.4	108.8	109.5	110.3	110.6	110.6	111.3	111.8	112.4	112.5	105.6	108.3	110.2	112.0
一人当たり賃金 千円 1.3 0.2 0.6 0.6 0.6 0.6 0.7 0.7 0.7 0.4 0.7 0.6 0.6 0.6 0.1 3.0 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.4 2.4 2.4 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.6 2.5 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.6 2.5 2.4 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.6 2.5 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.6 2.5 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4	2020 = 100	0.8	0.9	0.0	0.4	0.6	0.7	0.2	0.0	0.6	0.5	0.5	0.1	2.7	2.5	1.8	1.6
千円		2.5	2.7	1.9	2.1	1.9	1.8	2.0	1.7	1.6	1.4	1.6	1.7				
3.0 3.1 3.1 2.7 2.0 2.5 2.6 2.7 2.5 2.5 2.4 2.4 2.4 2.4 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.5 2.4 2.4 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.5 2.4 2.4 2.3 2.	一人当たり賃金	4246	4253	4277	4303	4330	4359	4388	4418	4437	4466	4495	4523	4146	4270	4374	4480
完全失業率 % 2.6 2.5 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.6 2.5 2.4 2.3 譲渡性預金金利 % 0.033 0.101 0.580 0.580 0.580 0.830 0.830 1.030 1.030 1.030 1.030 1.030 0.004 0.011 0.818 1.030 1.04年制国債利回り % 0.997 0.933 0.941 0.918 0.867 0.969 0.972 1.087 1.151 1.196 1.171 1.220 0.636 0.947 0.974 1.184 経常収支 兆円 7.1 6.9 7.5 8.4 7.6 7.6 7.6 7.7 7.7 8.8 7.6 7.4 7.1 26.6 29.8 30.6 31.0 対名目GDP比 4.7 4.5 4.9 5.4 4.9 4.9 4.9 4.8 4.8 5.5 4.7 4.6 4.4 4.5 4.9 4.9 4.9 原油価格 ドルバレル 83.52 77.35 73.28 71.44 70.19 68.44 66.12 65.15 65.15 65.15 65.15 65.15 80.67 76.40 67.48 65.15 円ドル為替レート 155.8 149.2 151.1 153.4 152.1 148.0 143.9 137.0 135.0 133.0 131.0 129.0 144.5 152.4 145.3 132.0 一般政府累積赤字 兆円 1276.0 1289.0 1299.7 1311.4 1324.9 1338.7 1352.5 1367.0 1382.0 1397.3 1412.9 1428.9 1263.0 1311.4 1367.0 1428.9 対GDP比 % 210.0 211.0 212.1 212.8 213.7 214.4 215.3 216.3 217.6 219.1 220.8 222.7 211.7 214.4 217.2 220.8	千円	1.3	0.2	0.6	0.6	0.6	0.7	0.7	0.7	0.4	0.7	0.6	0.6	0.1	3.0	2.4	2.4
完全失業率 % 2.6 2.5 2.4 2.4 2.4 2.4 2.4 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.6 2.5 2.4 2.3 譲渡性預金金利 % 0.033 0.101 0.580 0.580 0.580 0.830 0.830 1.030 1.030 1.030 1.030 1.030 1.030 0.004 0.011 0.818 1.030 1.0年物国債利回り % 0.997 0.933 0.941 0.918 0.867 0.969 0.972 1.087 1.151 1.196 1.171 1.220 0.636 0.947 0.974 1.184 経常収支 兆円 7.1 6.9 7.5 8.4 7.6 7.6 7.7 7.7 8.8 7.6 7.4 7.1 26.6 29.8 30.6 31.0 対名目GDP比 4.7 4.5 4.9 5.4 4.9 4.9 4.8 4.8 5.5 4.7 4.6 4.4 4.5 4.9 4.9 4.9 4.8 原油価格 ドルバレル 83.52 77.35 73.28 71.44 70.19 68.44 66.12 65.15 65.15 65.15 65.15 65.15 80.67 76.40 67.48 65.15 円ドル為替レート 155.8 149.2 151.1 153.4 152.1 148.0 143.9 137.0 135.0 133.0 131.0 129.0 144.5 152.4 145.3 132.0 一般政府累積赤字 兆円 1276.0 1289.0 1299.7 1311.4 1324.9 1338.7 1352.5 1367.0 1382.0 1397.3 1412.9 1428.9 1263.0 1311.4 1367.0 1428.9 対GDP比 % 210.0 211.0 212.1 212.8 213.7 214.4 215.3 216.3 217.6 219.1 220.8 222.7 211.7 214.4 217.2 220.8				3.1	2.7	2.0	2.5	2.6	2.7	2.5	2.5	2.4	2.4				
10年物国債利回り % 0.997 0.933 0.941 0.918 0.867 0.969 0.972 1.087 1.151 1.196 1.171 1.220 0.636 0.947 0.974 1.184 経常収支 兆円 7.1 6.9 7.5 8.4 7.6 7.6 7.6 7.7 7.7 8.8 7.6 7.4 7.1 26.6 29.8 30.6 31.0 対名目GDP比 4.7 4.5 4.9 5.4 4.9 4.9 4.8 4.8 5.5 4.7 4.6 4.4 4.5 4.9 4.9 4.8 原油価格 ドルバレル 83.52 77.35 73.28 71.44 70.19 68.44 66.12 65.15 65.15 65.15 65.15 65.15 80.67 76.40 67.48 65.15 円ドル為替レート 155.8 149.2 151.1 153.4 152.1 148.0 143.9 137.0 135.0 133.0 131.0 129.0 144.5 152.4 145.3 132.0 一般政府累積赤字 兆円 1276.0 1289.0 1299.7 1311.4 1324.9 1338.7 1352.5 1367.0 1382.0 1397.3 1412.9 1428.9 1263.0 1311.4 1367.0 1428.9 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1				2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3		2.5	2.4	2.3
経常収支 兆円 7.1 6.9 7.5 8.4 7.6 7.6 7.7 7.7 8.8 7.6 7.4 7.1 26.6 29.8 30.6 31.0 対名目GDP比 4.7 4.5 4.9 5.4 4.9 4.9 4.8 4.8 5.5 4.7 4.6 4.4 4.5 4.9 4.9 4.8 原油価格 ドルパレル 83.52 77.35 73.28 71.44 70.19 68.44 66.12 65.15 65.15 65.15 65.15 65.15 80.67 76.40 67.48 65.15 円ドル為替レート 155.8 149.2 151.1 153.4 152.1 148.0 143.9 137.0 135.0 133.0 131.0 129.0 144.5 152.4 145.3 132.0 一般政府累積赤字 兆円 1276.0 1289.0 1299.7 1311.4 1324.9 1338.7 1352.5 1367.0 1382.0 1397.3 1412.9 1428.9 1263.0 1311.4 1367.0 1428.9 1.0 1.0 0.8 0.9 1.0 1.0 1.0 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1																	
対名目GDP比 4.7 4.5 4.9 5.4 4.9 4.9 4.8 4.8 5.5 4.7 4.6 4.4 4.5 4.9 4.9 4.8 原油価格 ドルパレル 83.52 77.35 73.28 71.44 70.19 68.44 66.12 65.15 65.15 65.15 65.15 65.15 80.67 76.40 67.48 65.15 円ドル為替レート 155.8 149.2 151.1 153.4 152.1 148.0 143.9 137.0 135.0 133.0 131.0 129.0 144.5 152.4 145.3 132.0 一般政府累積赤字 兆円 1276.0 1289.0 1299.7 1311.4 1324.9 1338.7 1352.5 1367.0 1382.0 1397.3 1412.9 1428.9 1263.0 1311.4 1367.0 1428.9 1.0 1.0 0.8 0.9 1.0 1.0 1.0 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1		0.997															
原油価格 ドルバレル 83.52 77.35 73.28 71.44 70.19 68.44 66.12 65.15 65.15 65.15 65.15 65.15 80.67 76.40 67.48 65.15 円ドル為替レート 155.8 149.2 151.1 153.4 152.1 148.0 143.9 137.0 135.0 133.0 131.0 129.0 144.5 152.4 145.3 132.0 一般政府累積赤字 兆円 1276.0 1289.0 1299.7 1311.4 1324.9 1338.7 1352.5 1367.0 1382.0 1397.3 1412.9 1428.9 1263.0 1311.4 1367.0 1428.9 1.0 1.0 0.8 0.9 1.0 1.0 1.0 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1																	
円ドル為替レート 155.8 149.2 151.1 153.4 152.1 148.0 143.9 137.0 135.0 133.0 131.0 129.0 144.5 152.4 145.3 132.0 一般政府累積赤字 兆円 1276.0 1289.0 129.7 1311.4 1324.9 1338.7 1352.5 1367.0 1382.0 1397.3 1412.9 1428.9 1263.0 1311.4 1367.0 1428.9 1.0 1.0 0.8 0.9 1.0 1.0 1.0 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.9 3.8 4.2 4.5 対GDP比 % 210.0 211.0 212.1 212.8 213.7 214.4 215.3 216.3 217.6 219.1 220.8 222.7 211.7 214.4 217.2 220.8		4.7 83.52															
一般政府累積赤字 兆円 1276.0 1289.0 1299.7 1311.4 1324.9 1338.7 1352.5 1367.0 1382.0 1397.3 1412.9 1428.9 1263.0 1311.4 1367.0 1428.9 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1																	
1.0 1.0 0.8 0.9 1.0 1.0 1.1		************		***************************************							*******						
2.5 3.0 3.4 3.8 3.8 3.9 4.1 4.2 4.3 4.4 4.5 4.5 対GDP比 % 210.0 211.0 212.1 212.8 213.7 214.4 215.3 216.3 217.6 219.1 220.8 222.7 211.7 214.4 217.2 220.8																	
対GDP比 % 210.0 211.0 212.1 212.8 213.7 214.4 215.3 216.3 217.6 219.1 220.8 222.7 211.7 214.4 217.2 220.8																_	
財政バランス 兆円 -51.8 -49.5 -53.6 -55.9 -58.2 -60.7 -62.6 -64.4 -65.9 -67.4 -69.1 -70.3 -46.1 -52.7 -61.5 -68.2	対GDP比 %	210.0	211.0	212.1	212.8	213.7	214.4	215.3	216.3	217.6	219.1		222.7	211.7	214.4	217.2	220.8
	財政バランス 兆円																





日本経済予測結果表:四半期実質国内総支出

			四半期											年度			
		24Q2	24Q3	24Q4	25Q1	25Q2	25Q3	25Q4	26Q1	26Q2	26Q3	26Q4	27Q1	2023	2024	2025	2026
民間	最終消費支出	296.4	299.0	299.7	300.2	300.9	302.1	303.0	303.9	304.7	305.4	306.0	306.5	296.5	298.8	302.5	305.7
		0.7	0.9	0.2	0.1	0.2	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	-0.6	0.8	1.2	1.1
		-0.6	0.7	1.2	1.9	1.5	1.0	1.1	1.3	1.3	1.1	1.0	0.9				
民間	住宅	18.1	18.1	17.8	17.9	17.8	18.0	18.2	18.3	18.2	18.1	18.1	18.1	18.4	18.0	18.1	18.1
		1.4	-0.1	-1.8	0.6	-0.7	1.2	1.0	0.9	-0.6	-0.6	-0.1	-0.2	0.3	-2.3	0.5	0.3
		-3.4	-2.6	-3.4	0.1	-1.9	-0.6	2.2	2.5	2.5	0.6	-0.5	-1.5				
民間	企業設備	93.3	93.2	93.9	94.0	94.2	94.9	95.5	96.2	96.7	97.3	97.6	97.9	91.9	93.6	95.2	97.4
		0.9	-0.2	0.8	0.1	0.2	0.8	0.7	0.7	0.6	0.6	0.3	0.3	0.3	1.9	1.7	2.3
		2.5	2.5	1.1	1.7	0.9	1.8	1.7	2.3	2.7	2.6	2.2	1.8				
*****	在庫変動 	1.5	2.0	1.5	1.2	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.5	1.8	1.8
政府	最終消費支出	119.2	119.9	120.1	120.6	121.1	121.1	121.1	121.1	121.4	121.7	122.0	122.3	118.8	119.9	121.1	121.8
		0.1	0.5	0.2	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	0.3	0.2	-0.5	1.0	0.9	0.6
// 451	コウ次上 V - A	0.8	0.8	1.1	1.2	1.5	1.0	0.8	0.4	0.3	0.5	0.8	1.0				
公的	固定資本形成	26.6	26.4	26.7	26.6	26.1	26.5	27.0	27.6	27.4	27.3	27.2	27.0	26.0	26.6	26.8	27.2
		4.1	-0.9	1.2	-0.4	-1.7	1.5	2.0	2.0	-0.5	-0.5	-0.5	-0.5	0.6	2.0	0.9	1.6
	 在庫変動	-0.8 0.00	0.3	3.3 0.08	4.0 0.05	-1.9 0.05	0.5	1.3 0.06	3.8 0.05	5.1 0.05	3.0 0.05	0.5 0.05	-2.0 0.05	-0.02	0.04	0.05	0.05
	エ/年を新 	2.6	0.03	2.0	1.5	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5	1.6	1.6	1.6	-0.02 4.5	1.7	1.6	1.6
******	 ・サービスの輸出	112.7	113.1	114.9	115.0	115.9	116.4	116.8	117.4	117.9	118.5	119.0	119.5	112.0	113.9	116.6	118.7
,,,,,,		2.6	0.4	1.6	0.1	0.7	0.4	0.4	0.5	0.5	0.5	0.4	0.4	2.8	1.7	2.3	1.8
		1.0	1.2	-0.1	4.7	2.8	2.9	1.6	2.0	1.8	1.9	1.9	1.8				
財貨	・サービスの輸入	110.1	112.3	113.0	113.5	114.3	114.8	115.3	115.8	116.4	116.9	117.4	117.8	107.5	112.2	115.1	117.1
		2.9	2.1	0.6	0.5	0.7	0.4	0.5	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	-3.2	4.4	2.5	1.8
		3.7	4.9	3.0	6.1	3.9	2.2	2.1	2.1	1.8	1.9	1.8	1.7				
国内	総生産	557.3	558.5	560.8	561.2	562.6	565.1	567.3	569.7	571.1	572.5	573.5	574.5	558.1	559.5	566.2	572.9
		2.2	0.9	1.7	0.3	1.0	1.8	1.6	1.7	1.0	1.0	0.7	0.7	0.8	0.2	1.2	1.2
		0.5	0.2	0.4	0.1	0.2	0.5	0.4	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2				
		-1.0	0.2	0.6	1.3	1.0	1.2	1.2	1.5	1.5	1.3	1.1	0.8				
	内需寄与度	0.7	0.6	0.2	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	-0.6	0.7	1.2	1.2
	内、民需	0.4	0.6	0.1	0.1	0.2	0.4	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1	-0.5	0.5	1.0	1.0
	内、公需 外需寄与度	0.2	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	-0.1	0.3	0.2	0.2
国内	》 外需奇子度 総所得	-0.1	-0.4	0.2	-0.1 552.2	0.0 554.8	0.0	0.0	0.0 563.1	0.0 565.0	0.0 566.7	0.0	0.0	1.4	-0.5	0.0	0.0 566.8
1241737	NOV / I IST	548.8 2.6	550.4	552.3 1.4	0.0	1.9	557.7 2.1	560.3 1.9	1.9	1.4	1.2	567.5 0.6	568.2 0.5	548.8	550.9 0.4	559.0 1.5	1.4
		0.6	0.3	0.3	0.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.3	0.3	0.6	0.5	2.0	0.4	1.0	1.4
		-0.6	0.3	0.6	1.3	1.1	1.3	1.5	2.0	1.8	1.6	1.3	0.1				
Щ_		-0.0	0.4	0.0	1.3	1.1	1.3	1.0	2.0	1.0	1.0	1.3	0.9				

メモ:

暦年ベース実質GDP成長率

2024年:-0.3%

2025年: +1.1%

2026年: +1.4%

関西経済の現況と予測 Kansai Economic Insight Quarterly No.71

マクロ経済分析プロジェクト Contributors

稲田義久・入江啓彰・小川亮

野村亮輔・郭秋薇・劉子瑩・吉田茂一古山健大・宮本瑛・新田洋介・壁谷紗代



<u>【QRコードより</u> <u>体予測説明動画が11/28から</u> 視聴可能予定】



3. 「Kansai Economic Insight Quarterly No.71」の概要:

関西経済の現況:要旨

万博近づき、緩やかな持ち直し続く関西経済

万博後の26年度成長率予測を追加、緩やかな成長を維持

- 【概況】関西経済は、緩やかな持ち直しが続いている。家計部門は、センチメントなど弱い動きも見られるが、所得、雇用、住宅など緩やかに持ち直している。企業部門では、生産は一進一退であるが、景況感や設備投資計画は旺盛。対外部門では、財輸出・インバウンド需要とも落ち着きを見せているが堅調に推移している
- 【家計部門】一部に弱い動きが見られるが、緩やかに持ち直している。雇用環境は持ち直しており、大型小売店販売や名目賃金は堅調な伸びが続いている。ただし物価高の影響から、実質賃金は足下マイナスで推移している。センチメントも弱い動きで、頭打ちとなっている



3. 「Kansai Economic Insight Quarterly No.71」の概要:

関西経済の現況:要旨

(続き)

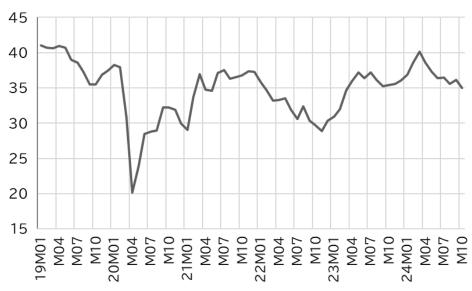
- 【企業部門】総じて緩やかに持ち直しているが、業種・規模・地域によって二極化傾向に ある。生産は台風の影響による稼働停止などもあり伸び悩んでいる。設備投資計画や景況 感は概ね好調に推移。海外景気や物価・金融資本市場の動向など先行きリスクが大きく注 意すべき状況にある
- 【対外部門】財貿易は輸出・輸入ともに持ち直している。欧米向け輸出は弱い動きが続いているが、中国・ASEAN向けの半導体関連部材の輸出が増加傾向にある。インバウンド需要は回復ペースに鈍化が見られるものの、依然として堅調である
- 【公的部門】公共工事は持ち直している。請負金額、出来高とも全国を上回る伸びである

3. APIR KEIQ No.71の概要:関西経済の現況



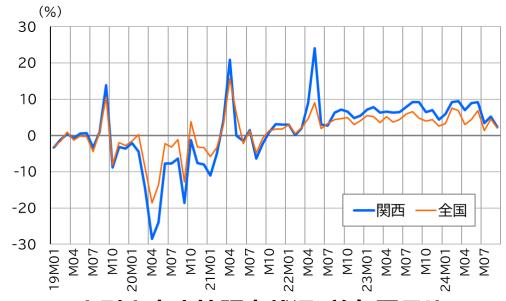
消費者センチメント・大型小売店販売

- **24年7-9月期の消費者態度指数**は36.1で、前期比-1.4ポイント、**2四半期連続の悪化**。月次ベースでは一進一退続きで、足下10月は35.0と23年3月(34.6)以来となる低水準まで下落した。構成項目別にみると雇用環境の悪化が目立っている
- **7-9月期の大型小売店販売額**は1兆161億円となった。前年同期比は+3.7%で、**12四半期連続で前年を上回った**。うち百貨店は同+6.6%で12四半期連続のプラス、スーパーは同+1.8%で8四半期連続のプラス。スーパーではコメ不足に伴う販売価格高騰が売上を押し上げた



消費者態度指数(センチメント)

出所:内閣府『消費動向調査』、季節調整はAPIRによる。



大型小売店等販売状況(前年同月比)

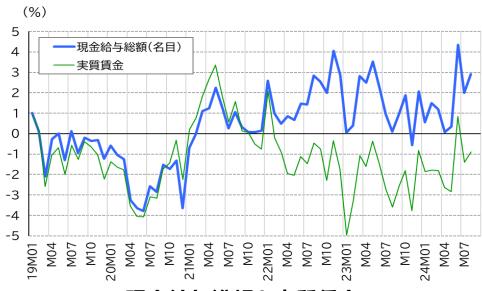
出所:近畿経済産業局『百貨店・スーパー販売状況』

APIR ASIA PACIFIC INSTITUTE OF RESEARCH

3. APIR KEIQ No.71の概要: 関西経済の現況

所得・物価

- 関西の現金給与総額(2024年8月)は、前年同月比+2.9%で9カ月連続で前年を上回った。物価変動の 影響を除いた実質賃金は、24年6月に賞与による伸びで29カ月ぶりにプラスに転じたが、7月・8月 は再びマイナスに転じた
- **24年7-9月期の消費者物価指数**(コア、2020年平均=100)は108.1で、前年同期比+2.8%と**12四半期連続で上昇した**。内訳をみると、コメ不足に伴う販売価格高騰に伴い食料価格が上昇した一方、電気・ガス代の補助再開による効果でエネルギー価格の伸びは縮小した



現金給与総額と実質賃金

出所:厚生労働省「毎月勤労統計調査」を加工



関西消費者物価総合指数(前年同月比)

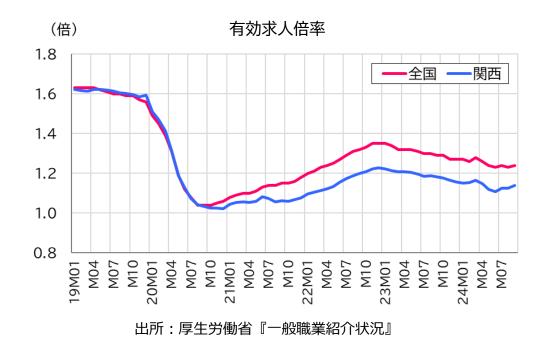
出所:総務省統計局「消費者物価指数」

APIR ASIA PACIFIC INSTITUTE OF RESEARCH

3. APIR KEIQ No.71の概要: 関西経済の現況

雇用

- **24年7-9月期の関西の有効求人倍率**(季節調整値)は1.13倍で、前期比+0.01ポイントと小幅ではあるが**7四半期ぶりに改善した**。月次ベースでみると、改善と悪化を繰り返している。また新規求人倍率(季節調整値)は2.23倍で、前期比+0.07ポイントで2四半期ぶりの改善となった
- 全国の7-9月期の有効求人倍率は1.24倍、新規求人倍率は2.26倍だった。関西と同様に一進一退の 状況が続いている。**有効求人倍率については依然として関西と全国で開きがある**

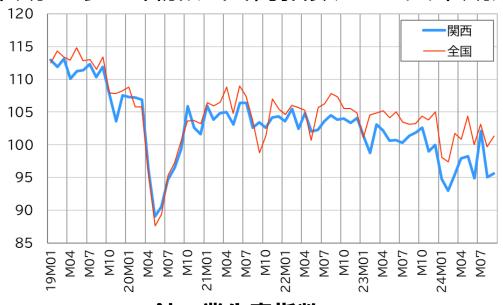


IR

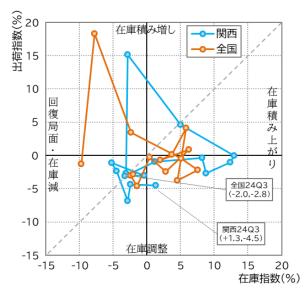
3. APIR KEIQ No.71の概要: 関西経済の現況

生産・在庫

- **24年7-9月期の生産指数**(季調値、2020年=100)は97.6で、前期比+0.6%と**2四半期連続の 増産**となった。業種別では電気・情報通信機械工業が大きく伸びた。**月次ベースで見ると**、7 月前月比+7.6%、8月同-7.0%、9月同+0.6%と、台風の影響による稼働停止などもあり一 **進一退の動きとなっている**
- 7-9月期の関西の在庫指数は前年同期比+1.3%、出荷指数は同-4.5%となった。在庫指数は 7四半期ぶりの増加、出荷指数は12四半期連続の低下。**在庫調整局面が続いている**



出所:近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業生産動向」



在庫循環図

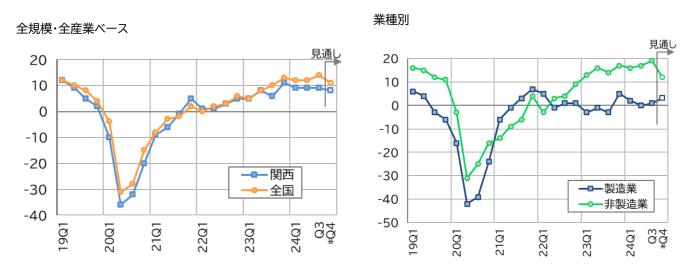
注:2020年1-3月期から2024年7-9月期まで



3. APIR KEIQ No.71の概要: 関西経済の現況

短観:業況判断DIと設備投資計画

- **24年9月短観での関西企業の業況判断DI**(全規模・全産業)はプラス9。前回調査と同水準で、**12四半期連続でプラスを維持**した。**業種別**では、製造業1(前期比+1ポイント)、非製造業プラス19(同+2ポイント)だった。**製造業・非製造業どちらも小幅ではあるが持ち直した**
- また同調査によると**関西企業の2024年度設備投資計画**(全規模・全産業ベース)は前年度比+17.1% だった。前回調査時点(同+16.4%)から上方修正となっている。業種別では、**製造業**同+23.9%、**非製造業**同+11.8%と**ともに高い伸びが見込まれている**



		関西		全国						
	全産業	製造業	非製造業	全産業	製造業	非製造業				
23年度	0.9	6.8	-3.2	10.6	6.7	12.8				
24年度	17.1	23.9	11.8	8.9	17.0	4.4				

短観:企業業況判断DIの推移

注:*は見通しであることを示す。

出所:日本銀行大阪支店『全国企業短期経済観測調査(近畿地区)』

設備投資計画:前年度比(%)

出所:日本銀行大阪支店『全国企業短期経済観測調査(近畿地区)』



3. APIR KEIQ No.71の概要: 関西経済の現況

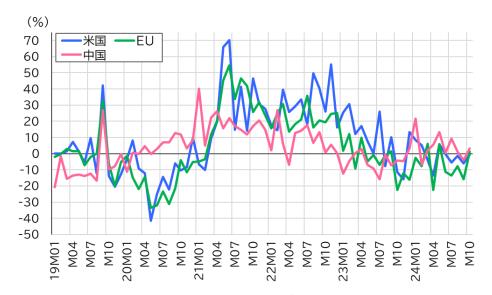
対外部門:財貿易

- **24年7-9月期の輸出額**は5.5兆円で、前年同期比+2.8%と**3四半期連続で前年の水準を上回った**。全国は同+4.5%で15四半期連続で前年比プラスだった
- 地域別では、対米国が同-4.4%で2四半期連続のマイナス、対EUも同-12.6%で5四半期連続のマイナスとなった。一方対中国は同+2.0%で3四半期連続のプラスとなった
- **7-9月期の輸入額**は5.0兆円で、前年同期比+7.5%と**2四半期連続のプラス。貿易収支**は+4,607億円で**8四半期連続の黒字**だった



関西と全国の輸出(前年同月比)

出所:大阪税関『近畿圏貿易概況』



地域別輸出(前年同月比)

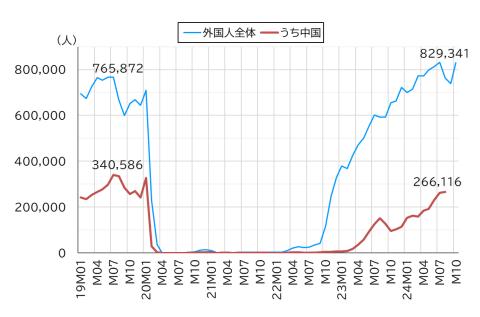
出所:大阪税関『近畿圏貿易概況』



3. APIR KEIQ No.71の概要: 関西経済の現況

対外部門:サービス貿易

- **24年7-9月期**に関空経由で入国した**外国人客数**は233.2万人だった。**4四半期連続の200万人超え**。 8月・9月は前月比で減速したが足下10月は82.9万人と増加に転じた。国籍別に見ると、中国からの 旅行客が増えており、6月以降は韓国を抜いて最多となった
- **7-9月期の百貨店免税売上高**は前年同期比+51.6%となり、**14四半期連続で前年を上回った**。引き続き化粧品や高級ブランド品等の売上が好調であるが円高基調から伸び率は鈍化した



関空経由訪日外国人数

出所:法務省『出入国管理統計』



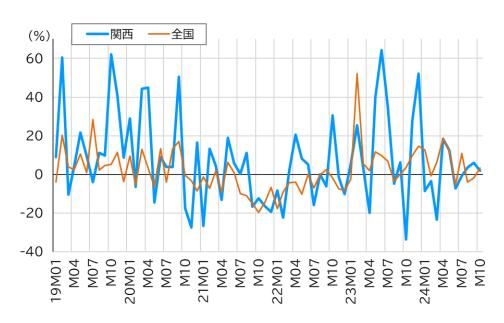
百貨店免税売上

出所:日本銀行大阪支店『百貨店免税売上(関西地域)』



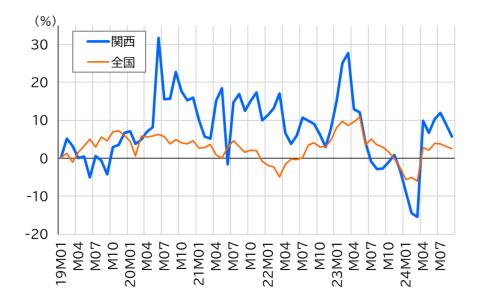
公共工事

- **24年7-9月期の関西の公共工事請負金額**は、前年同期比+2.8%で**2四半期連続のプラス**となった。 全国は同+2.2%で8四半期連続のプラス
- **7-9月期の公共工事出来高**も前年同期比+8.7%で**2四半期連続のプラス**となった。全国も同+3.2%で2四半期連続のプラス。24年度に入って、7-9月期は**関西の伸びが全国を上回った**



公共工事請負金額(前年同月比)

出所:東日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』



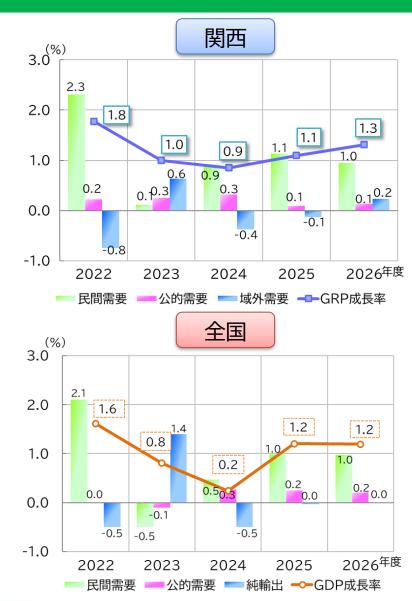
公共工事出来高(前年同月比)

出所:国土交通省「建設総合統計」



実質GRP成長率の予測結果と項目別寄与度

- 関西の実質GRP成長率を2024年度+0.9%、25年度 +1.1%、26年度+1.3%と予測。民需の下支えにより 1%前後の緩やかな伸びが続く。今回から26年度の予測 を新たに追加
- 成長に対する寄与を見ると、**民間需要**は24年度+0.9%ポイント、25年度+1.1%ポイント、26年度+1.0%ポイントとなり、成長を牽引する。**公的需要**は万博需要で24年度は+0.3%ポイントと成長を押し上げるが、25年度・26年度は小幅寄与にとどまる。**域外需要**は24年度-0.4%ポイント、25年度-0.1%ポイントと成長を引き下げるが、26年度は+0.2%ポイントとプラスに転じる







前回予測からの修正・日本経済予測との比較

- 前回予測(24年8月28日公表)に比べて、
 - ・24年度:-0.4%ポイント **下方修正**
 - ・25年度:-0.2%ポイント **下方修正**
- **24年度、25年度**とも**民間需要を小幅上方修正**した。 一方輸入を上方修正したことに伴い**外需が下方修正**と なり、**全体として下方修正**
- 経済成長率を日本経済予測と比較すると、24年度は関 西が全国を上回る伸び、25年度26年度は関西と全国 で概ね近い成長率となる見通し

	24年度	25年度				
GRP 成長率	-0.4%pt	-0.2%pt				
民間需要	+0.1%pt	+0.1%pt				
公的需要	+0.1%pt	修正なし				
域外需要	-0.5%pt	-0.3%pt				



注:四捨五入の関係で、需要構成項目の寄与度を合計しても実質GDP成長率とは必ずしも合致しない。

出所: APIR KEIQ No.71



3. APIR KEIQ No.71の概要:予測結果の解説

民間部門の寄与

- GRP成長率に対する民間需要の寄与度は、 24年度+0.9%ポイント、25年度+1.1%ポイント、26年度+1.0%ポイントと予測。2 4年度以降、民間需要が成長全体を牽引する
- **家計部門の実質GRP成長率に対する寄与度**は **24年度+0.6%ポイント、25年度+0.7%ポイント、26年度+0.6%ポイント**となる。実質賃金が24年度にプラスに転じ、25年度も回復が続くことで、消費押し上げ要因
- 企業部門は設備投資が底堅く、24年度同 +0.4%ポイント、25年度同+0.5%ポイント、26年度同+0.4%ポイント



関西経済における民間部門の寄与

注:四捨五入の関係で、各構成項目の寄与度を合計しても民間需要の

寄与度とは必ずしも合致しない。

出所: APIR KEIQ No.71



3. APIR KEIQ No.71の概要:予測結果の解説

関西経済予測結果表(2024年11月27日予測結果)

	関西経済				日本経済					
年度	2022	2023	2024	2025	2026	2022	2023	2024	2025	2026
民間最終消費支出	2.9	0.1	1.0	1.2	1.0	2.7	▲ 0.6	0.8	1.2	1.1
民間住宅	▲ 3.1	▲ 0.4	▲ 0.1	0.4	1.1	▲ 3.3	0.3	▲ 2.3	0.5	0.3
民間企業設備	1.6	1.6	3.0	2.7	1.6	4.1	0.3	1.9	1.7	2.3
政府最終消費支出	1.1	0.3	1.0	0.9	0.6	1.4	▲ 0.5	1.0	0.9	0.6
公的固定資本形成	0.9	5.1	4.0	▲ 1.2	1.0	▲ 6.1	0.6	2.0	0.9	1.6
輸出	1.4	0.6	1.7	2.5	1.9	4.9	2.8	1.7	2.3	1.8
輸入	5.6	▲ 1.3	3.4	2.8	1.4	7.3	▲ 3.2	4.4	2.5	1.8
実質域内総生産	1.8	1.0	0.9	1.1	1.3	1.6	8.0	0.2	1.2	1.2
民間需要(寄与度)	2.3	0.1	0.9	1.1	1.0	2.1	▲ 0.5	0.5	1.0	1.0
公的需要(寄与度)	0.2	0.3	0.3	0.1	0.1	0.0	▲ 0.1	0.3	0.2	0.2
域外需要(寄与度)	▲ 0.8	0.6	▲ 0.4	▲ 0.1	0.2	▲ 0.5	1.4	▲ 0.5	▲ 0.0	0.0
名目域内総生産	2.7	5.0	3.2	2.9	3.2	2.5	4.9	2.5	2.9	2.8
GRPデフレータ	1.0	4.0	2.4	1.8	1.9	0.9	4.1	2.3	1.7	1.6
消費者物価指数	2.8	2.8	2.6	2.0	1.7	2.9	2.7	2.5	1.8	1.6
鉱工業生産指数	▲ 1.1	▲ 3.5	▲ 0.5	2.0	1.4	▲ 0.3	▲ 1.9	▲ 0.8	3.0	2.1
完全失業率	2.9	2.9	2.8	2.6	2.6	2.6	2.6	2.5	2.4	2.3

(注)単位%、完全失業率以外は前年度比伸び率。関西経済の2022-23年度は実績見通し、24-26年度は予測値。 日本経済の23年度までは実績値、24年度以降は「第150回景気分析と予測」による予測値。

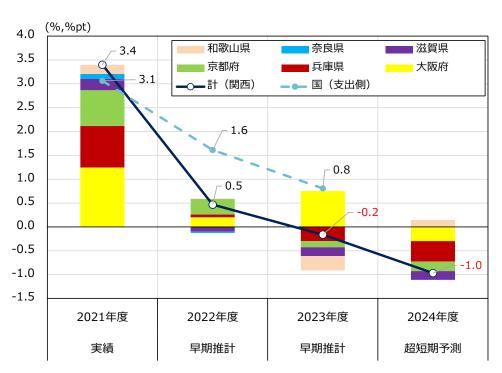


4. トピックス: 関西2府4県GRPの早期推計

府県別GRPの早期推計:2022-24年度

- 2022年度・23年度のGRP(早期推計)は関西全体でほぼ横ばいの動きであるが、23年度は大阪府のプラス寄与に対して、他府県はマイナス寄与
- 24年度のGRP(超短期予測)は、大阪府がマイナス成長に転じて、関西全体で-1.0%のマイナス成長を予想

							(00-)	
	大阪府	兵庫県	京都府	滋賀県	奈良県	和歌山県	計(関西)	国(支出側)
モデルの推計期間	2006 – 21	2006 - 21	2006 - 21	2006-21	2006 - 21	2006 - 21		
●モデルの適合度								
自由度修正済決定係数	0.84	0.93	0.76	0.82	0.79	0.72	-	
GRP水準のMAPE(%)	0.79	0.54	1.22	1.93	0.62	1.25	-	
GRP成長のMAPE(%)	1.26	0.86	1.97	2.61	0.94	2.14	-	
●実質GRP/GDP(10億円)								
FY2020(実績)	38,995	21,533	10,066	6,808	3,624	3,460	84,485	528,690
FY2021(実績)	40,047	22,267	10,701	7,008	3,712	3,622	87,356	544,874
FY2022(早期推計)	40,221	22,317	10,985	6,920	3,689	3,632	87,764	553,657
FY2023(早期推計)	40,879	22,056	10,871	6,759	3,686	3,370	87,621	558,124
FY2024(超短期予測)	40,617	21,682	10,694	6,599	3,686	3,495	86,773	
●実質GRP/GDP成長率(%)								
FY2021(実績)	2.7	3.4	6.3	2.9	2.4	4.7	3.4	3.1
FY2022(早期推計)	0.4	0.2	2.7	-1.3	-0.6	0.3	0.5	1.6
FY2023(早期推計)	1.6	-1.2	-1.0	-2.3	-0.1	-7.2	-0.2	0.8
FY2024(超短期予測)	-0.6	-1.7	-1.6	-2.4	0.0	3.7	-1.0	
●実質GRP成長率(%):寄与度								
FY2021(実績)	1.2	0.9	0.8	0.2	0.1	0.2	3.4	
FY2022(早期推計)	0.2	0.1	0.3	-0.1	0.0	0.0	0.5	
FY2023(早期推計)	0.7	-0.3	-0.1	-0.2	0.0	-0.3	-0.2	
FY2024(超短期予測)	-0.3	-0.4	-0.2	-0.2	0.0	0.1	-1.0	



- 注1) MAPEはMean Absolute Percentage Error (平均絶対誤差率)の略。
- 注2) 実質GRPは生産側の連鎖価格表示。実質GDPは支出側の連鎖価格表示。
- 注3) 実質GRPについては、2011年度から21年度までが平成27暦年連鎖価格表示。2006年度から10年度は平成23暦年連鎖価格表示を前者に接続。



4. トピックス: SNSから見た万博の機運醸成の評価分析

はじめに

- 万博開催まで半年を切り、パビリオンなどの建設は着実に進み、展示内容がメディアを通じて紹介されるなど、開幕に向けて準備が徐々に整いつつある
- 一方で、**関西以外の他地域(海外含む)において**、今回の**万博に対して十分認知されていないという意見**もみられる
- 万博協会は、2024年7月以降、**万博の機運醸成を高めるためにSNSを通じた情報発信の強化に取り組み**、万博への関心を若年層を中心に集めようとしている
- SNS発信強化以降の万博関連アカウント(万博協会公式アカウントや民間及び海外パビリオンなど)に注目し、フォロワー数の推移や投稿内容について調査を行い、万博の機運醸成がどの程度進んでいるかを分析*
- *本トピックスの分析対象はX(旧Twitter)とし、各アカウントのフォロワー数等のデータ最終確認は11/15時点



4. トピックス: SNSから見た万博の機運醸成の評価分析

万博協会による機運醸成のプロモーション活動

- 万博開幕500日前にあたる第1期プロモーション(2023年10月~12月):入場チケットの販売開始、Webサイトのリニューアルやポスター・サイネージの掲載など、万博の認知度を高めるために全国的なプロモーションを展開
- 開幕半年前にあたる第2期プロモーション(2024年9月~11月): **SNSを用いた積極的なプロモーション**を展開
- 足下で行われている第2期プロモーションでは、**具体的なターゲット層**(こども・若年層、シニア層、地方、インバウンド層、ファン・マニア層)**と訴求内容を設定**
- うち、「こども・若年層」に注目すると、**SNSを最大限に活用したプロモーション**が取り上げられているのが特徴的

【第1期プロモーション: 開幕500日前 (2023年10月~12月)】

- 〇各種PRツールを用いた機運醸成
- ○全国の主要ターミナル駅のポスター・ デジタルサイネージの掲載
- ○鉄道・バス・航空機などの万博ラッピングを実施した車両や機体の運行
- ○入場チケット販売開始時にテレビCM、 新聞広告、雑誌特集号などのメディア 露出が実現。
- 〇開幕500日前イベントや入場チケット 販売開始イベントなど各種イベントを 実施
- ○博覧会協会公式Webサイトを来場者 目線のものに全面リニューアル

【第2期プロモーション: 開幕半年前 (2024年9月~11月)】

- ○新たな広報発信コンテンツの作成・発信
- ○SNSを含むデジタルメディアの積極的な 活用
- 〇万博を活用した各地域での盛り上げ
- 〇インバウンド層を中心とした情報発信

【第3期プロモーション: 開幕直前・直後 (2025年3月~5月)】

※詳細未定

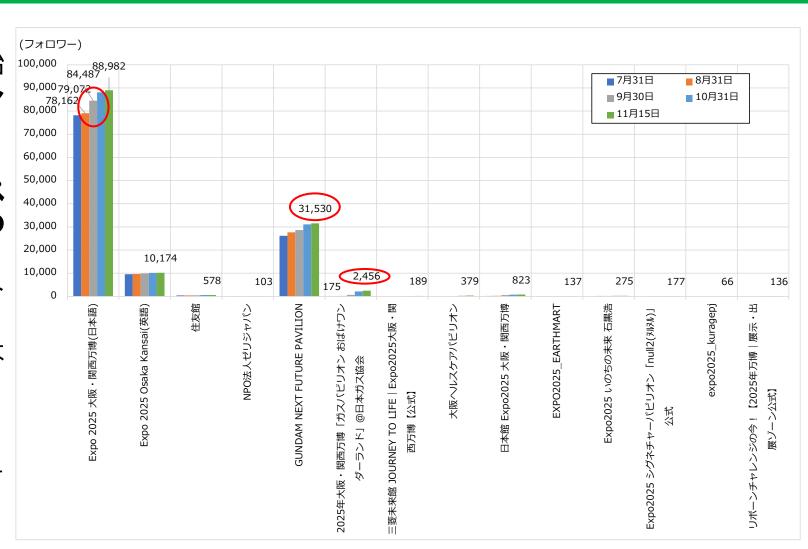
出所:2025年日本国際博覧会協会「機運醸成行動計画ver.2」より抜粋





国内パビリオン関連アカウントのフォロワー数:X(旧Twitter)

- SNSによる発信強化が本格的に開始 された7月以降、**万博公式アカウン** トのフォロワー数は着実に増加
- 9月の大幅増加の要因として、Ado のオープニングライブの発表やスペ シャルサポーターとのコラボ関連の 投稿が影響した可能性
- **国内パビリオン**に関するアカウントをみれば、**バンダイナムコが3万以上のフォロワー数で最多**。足下ではガスパビリオンのアカウントが2,456フォロワーを獲得しており、着実に増加
- 一方、他のアカウントも増加はしているものの、増加ペースは緩やか



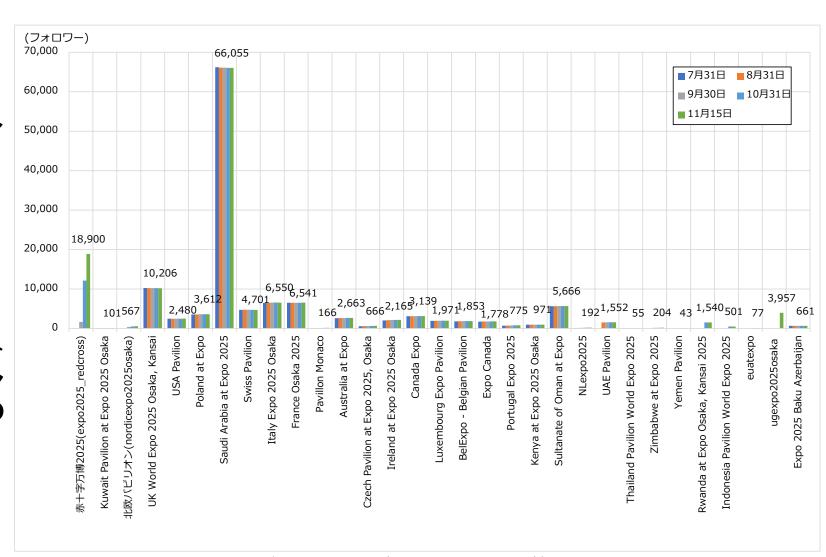
出所:Xにおける各アカウントから筆者作成





海外パビリオン関連アカウントのフォロワー数:X(旧Twitter)

- 海外パビリオン関連のアカウント をみると、
- **サウジアラビア**のアカウントが 66,055フォロワーと**最も多く**、 次いで赤十字万博が18,900フォ ロワー、イギリスが10,206フォ ロワーと続く
- 国内パビリオン関連のアカウントに比して、多くの海外パビリオンのフォロワー数は概ね横ばいでの推移が続く



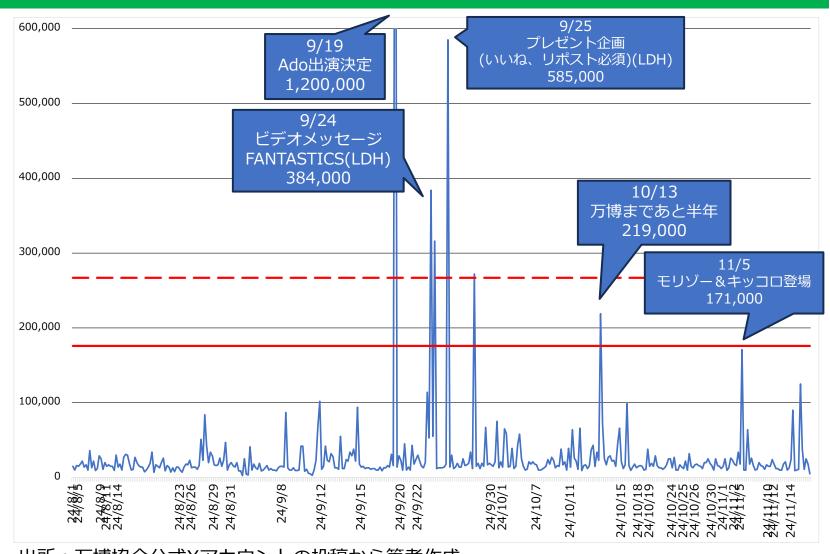
出所:Xにおける各アカウントから筆者作成





万博公式アカウントのインプレッション数の推移:X(旧Twitter)

- 月別平均インプレッション数は、 8月は1.9万、9月は4.0万、10 月は2.4万、11月平均(15日ま で)は2.5万。8月と10月を比較 すると1.3倍に増加
- **特に9月19日の**Ado出演決定の 投稿が**120.0万と最多**
- 若年層に**人気のアーティストと** のコラボ、プレゼント企画に関 する投稿が目立つ



出所:万博協会公式Xアカウントの投稿から筆者作成

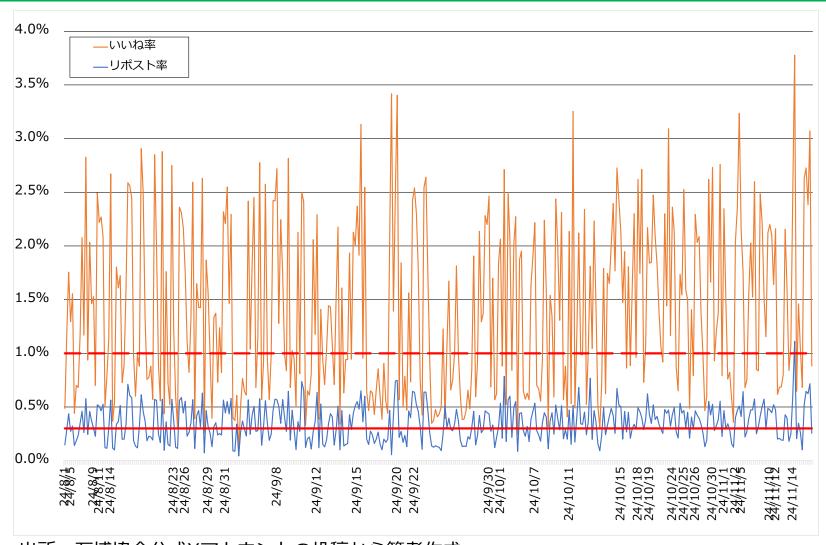
注:図の赤実線は、インプレッション数17.8万の位置を、赤点線は同26.7万の位置を示す。





万博公式アカウントのエンゲージメント率の推移:X(旧Twitter)

- 投稿に対するエンゲージメン ト指標をみると、
- 「いいね率」は、8月1.4%、9月1.3%、10月1.5%、11月平均(15日まで)1.6%と、概ね 1%台で推移
- 「**リポスト率**」をみると、8月 0.3%、9月0.3%、10月0.4%、 11月平均(15日まで)0.4%。 「いいね」に比して「リポスト」が少ない
- なお、9月19日のAdo出演決定 に関する投稿は、いいね率 3.4%、リポスト率0.1%



出所:万博協会公式Xアカウントの投稿から筆者作成

注:図の赤実線は、エンゲージメント率0.3%の位置を、赤点線は同1.0%の位置を示す。





小括

- ■(1)万博公式や国内パビリオン関係のフォロワー数は着実に増加。第2期プロモーションの取組の成果が一定程度表れた
- ■(2)一方、海外パビリオン関係のアカウントの多くは微増にとどまる。今後、展示内容等が情報発信されることでフォロワーの獲得につながる可能性がある
- ■(3) 万博公式アカウントの投稿の**インプレッション数をみると、9月以降**Adoの ライブ決定、スペシャルサポーターとのコラボの投稿に**多くのユーザーが閲覧**
- (4) 今後、万博無関心層へ訴求し、リポスト率を上げることが重要。注力すべきは、ユーザーの興味をひくイベントなどの内容をタイムリーに発信することである